

鎌倉市教科用図書採択検討委員会（第2回） 会議録

日 時 平成 27 年 7 月 9 日（木） 10：00 開会
17：40 閉会

場 所 鎌倉市深沢行政センター 第1会議室

出席者 石渡委員 島巡委員 鷺谷委員 吉田委員 川合委員 滝川委員
安宅委員 久保田委員 初見委員

事務局 杉並教育指導課長 露木指導主事 關根指導主事 坂井指導主事
中尾指導主事 河合指導主事 多那指導主事 太田指導主事
渋谷指導主事 鈴木指導主事

次 第

- 1 開会
- 2 種目ごとの説明、協議等
 - （1）調査員会の説明及び検討、協議等
 - （2）今後の日程
- 3 閉会

委員長 これから、鎌倉市教科用図書採択検討委員会の第2回委員会を開催する。
本日の議事録署名委員を鷺谷委員と吉田委員に願うする。

委 員 (了解)

委員長 本日の流れについて事務局から説明を願うする。

事務局 最初に資料の確認をし、調査員の報告を種目担当指導主事が種目ごとに行う。その後、調査員の報告について、種目ごとに質疑をいただく。質疑の後、暫時調査研究の時間を取り、種目ごとに協議・検討に入らせていただく。

委員長 今事務局から説明があったが、質問はあるか。

委 員 (なし)

委員長 事務局からの調査員会での内容説明の前に、本委員会で作成する報告書の総合評価について、第1回の検討委員会で確認した。内容を改めて確認する。評価については3段階を基本とし 総合評価の欄には星の数で表記する。☆1つ、☆2つ、☆3つとし、種目ごとの☆の数は協議・検討し決めていく。☆2つは、鎌倉の生徒にふさわしいと検討委員会で判断した教科書。☆3つは、鎌倉の生徒によりふさわしいと検討委員会で判断した教科書とし、☆1つは、☆2つ、☆3つにあたらないものとする。なお、判断の基準は、調査・検討・協議の中で優れた評価を得ているものを☆2つとし、調査・検討・協議の中で特に優れた評価を得ているものを☆3つとする。☆2つ、☆3つ以外のものを☆1つとする。また、種目ごとに☆3つ、☆2つ、☆1つをそれぞれいくつの発行者のものにつけるかについては、協議の中で判断していく。何か評価について質問・意見はあるか。

副委員長 調査員の作成した資料を見せてもらった。各種目とも短期間にもかかわらず、各教科の特徴を的確に指摘している。各教科・種目の専門の先生方が調査しまとめたこの資料を重視し、併せて県や学校からの調査内容も参考にして、鎌倉の生徒たちにふさわしいと考えられる教科書を選んでいくことがよいと考える。したがって、この資料をもとにして、意見交換していきながら評価をつけていく進捗でどうか。

委員長 今、副委員長から協議の進捗について意見が出たが、いかがか。

委 員 (異議なし)

委員長 他に質問・意見はあるか。

委員長 なければ報告書については、先ほど確認したように☆で評価していく形

式にする。ことで再度確認したい。

委 員 (異議なし)

委員長 それでは、本日の資料の確認を事務局お願いします。

事務局 本日用意した資料は、「神奈川県教育委員会中学校用教科書用図書調査研究の結果」、「鎌倉市教科用図書採択検討委員会調査員会種目別調査資料」、「平成28年度使用中学校教科書編修趣意書」、「学校調査票のまとめ」、以上の資料は、机上に配付している。また、教科書見本本教科書展示会での「市民の声のアンケートのまとめ」、「学習指導要領」については、入口付近のテーブルに用意してある。以上が本日の調査研究の資料となる。

なお、参考として、昨年度までの『全国学力・学習状況調査』の分析結果『「かまくらっ子」の実態調査」、「かまくら教育プラン」も用意した。

続いて、資料について簡単に説明する。

まず、「調査員会種目別調査資料」は、調査員会の報告である。のちほど担当の指導主事から詳しく説明する。

「神奈川県教育委員会中学校用教科書用図書調査研究の結果」は、神奈川県教育委員会が神奈川県教科用図書選定審議会からの答申を受け作成した資料である。

「学校調査票のまとめ」は5月20日から市内中学校9校に見本本を巡回展示し、「共通な観点」、「教科・種目別の観点」、「本校生徒にふさわしいか」という3つの観点で各校が調査研究したものについてまとめたものである。

「鎌倉市教科用図書調査研究報告書」については、今回の検討委員会で、協議いただいた内容をもとに作成したいと考えている。教科書展示会については、市中央図書館を会場に6月24日から7月1日までの7日間一般市民を対象に教科書各種目見本本、教科書編修趣意書、採択の流れ、教科書目録、採択方針などを展示し、展示会にいらした方の意見をそのまま綴じたものがある。なお、7日間で教科書展示会来場者91名、意見を書いた方は84名。他の資料については、前回説明したため、省略する。

委員長 ここまでで質問はあるか。

委 員 (なし)

委員長 引き続き調査報告をお願いします。

事務局 調査資料について説明する。5月8日開催の採択検討委員会の指示を受け、調査員に「県の採択方針にある調査研究の観点に基づき、種目ごとに特徴的なことを記述する」という内容を確認した。また、調査資料については、「1 調査員が個人の立場でなく、種目別に調査員会として調査資料を作成する。2 種目ごとに調査員全員がすべての教科書の調査・研究

にあたり、全員の総意として資料を作成する。」ことを基本としてまとめることとした。5月15日、6月17日、25日の3回調査員会を開催し、取りまとめたものがこの資料である。種目別の調査内容については、担当指導主事から説明する。

委員長 では、国語から始める。担当指導主事、お願いします。

指導主事 説明する。

【東京書籍】

- ・巻頭折り込みでは、領域ごとの学習の進め方や1年間の見通しが明確にわかりやすく示されている。
- ・単元ごとに、学習のポイントを「言葉の力」として明示し、全教科の学習と実生活の言語活動を支える基礎的な力が鍛えられるように本編に「学びの扉」、資料編に「学びを支える言葉の力」が設けられている。
- ・「情報化」に関連して、情報発信、情報受信の注意点について考える教材「ニュースの見方を考えよう」が掲載されているように、3年間を通じて、メディアリテラシーなど、今日的な社会状況の教材を取り上げている。
- ・教科書で読んだ作品をきっかけに、さまざまな本に手を伸ばすことができるように、「読書案内」では、古典、翻訳書、話題の作品から名作まで、3学年で305冊の本が紹介されている。

【学校図書】

- ・教材の最初に抽象、具体の二面から課題が示されている。また、「学習の窓」には、学習の手だてが明確に示され、意見や感想の交流につながるよう工夫されている。見通しをもって学習にのぞみ、ふり返りなどを直接書き込めるようになっている。
- ・単元名が全学年統一され、国語2の「絆」という単元に、「吟味された言葉（随想）」という選択教材があるように、教材や活動の選択・再構成ができるように、各単元に選択教材が設けられている。
- ・「ものづくりに生きる」など、進路や職業選択につながるような産業や労働・職業についての視点から書かれた教材が収録されている。
- ・学習のポイントがキャラクターの吹き出しによって示されるなど、図表やイラストが効果的に使われている。

【三省堂】

- ・「領域別教材一覧」によって、身に付けたい力と具体的な言語活動が示され、3領域のすべての教材の冒頭に「つけたい力」と学習目標を提示し、学び方を意識しながら学習に取り組み、教材の最後に学習の過程をふり返る構成となっている。
- ・3年の「話すこと・聞くこと」の領域では、「企画会議 合意を形成し、課題を解決する」という教材を取り上げ、現代社会の課題に対応するために、対話や合意形成の方法や考え方を培うよう取り上げている。
- ・日本の伝統的な言語文化として代表的な文章を、古典の文章を写真や絵巻とともに取り上げ、古典教材の本文と現代語訳文の配色を変えている。

- ・本編と資料編の二部で構成され、資料編は、「読書の広場」「考える広場」「参考資料」からなり、本編の学習材と関連させて使用することで、学習を補充・発展させることができるよう工夫されている。

【教育出版】

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」には学習の流れが示され、「読むこと」には学習の手引きとなる「みちしるべ」があることで、見通しをもって学習にのぞみ、学習のふり返りが行えるようになっている。
- ・小学校や高等学校との接続が意識できるように、1年では、小学校で学んだことのふり返りと中学校の国語科で学ぶことを学習の「導入単位」として設け、3年では、高等学校の国語科でよく取り上げられる作者・筆者の作品が収録されている。
- ・多様な古典作品について、文章だけでなく、関連する写真や図版などの豊富な資料が掲載され、今日まで受け継がれている作品の価値を認識できるようにしている。
- ・1年には、まはら三桃による物語文「音を追いかけて」、3年には池内 了による「『新しい博物館』の時代」が掲載されているように、現代の第一線で活躍している筆者による書き下ろし教材や作品などが、数多く収録されている。

【光村図書】

- ・教科書冒頭に位置づけた「学習の見通しをもとう」では、1年間で身に付ける力を見通し、どんな力をどの教材で焦点化して学ぶのかを視覚的にわかるように一覧表で表している。また、単元ごとに身に付けた力を具体的にふり返るよう工夫されている。
- ・領域ごとに身に付けたい力に対して学びの手順を統一し、「目標」「学習の窓」「学習を振り返る」「次へつなげよう」などの柱を立て、それぞれの具体的な手立てが示されている。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、生徒が興味をもって主体的に学習できるように、導入では「いろは歌」や「平家物語」、「古今和歌集 仮名序」を取り上げ、音読を楽しみながら古文の響きやリズムに親しめるように工夫している。
- ・1年では「桜守三代」（2年では「小さな町のラジオ発 臨時災害放送局 『りんごラジオ』」）が掲載されているように、人の生き方に焦点を当てたフィクションを取り上げ、伝統や災害、戦争の中で、前向きに生きる人々の姿を通して、生徒が自分自身を深く見つめることができるよう工夫されている。

委員長 協議にあたり、委員には資料を活用して、意見を多く出してほしい。それでは協議に入る。

委 員 質問だが、2部に分かれているものとそうでないものについて、調査員の意見はどうか。

指導主事 資料編が充実しているところは、鎌倉の生徒たちにとって良いとの意見があった。

- 委員長 資料編が充実しているものは、評価に入れることにする。
- 委 員 学校図書の教材で抽象と具体の2案の意味はどういうことか。
- 指導主事 「逃げることはほんとうにひきょうか」という教材がある。下に水色の文字で2つ課題があり、「社会の絆を考える」と「独自の意味を表す表現を捉える」と示されている。「社会の絆を考える」は、とても抽象的な書き方で、もう一つの「独自の意味を表す表現を捉える」は、具体的に示されている。このように、各教材には具体と抽象の2面から課題が示されているということである。
- 委 員 三省堂の領域別一覧があるが、このような一覧があり、目標が分かりやすいものは生徒の学習にとり、非常に良い。合わせて東京書籍の読書案内など、生徒に興味を持たせるという意味では、いいのではないか。
- 委 員 三省堂に「領域別教材一覧」とあるが、どうしても先生の得意分野があるので、観点別にバランスよく生徒に勉強させるには、特に新しく先生になった方には、使いやすいのではないか。
- 委 員 古典の指導について、学習指導要領解説編に「親しむ態度を育成することを重視する」とあり、光村図書の「音読を楽しもう」で古典の響きやリズムに親しむよう工夫がされている。生徒たちが入っていきやすい。
- 委 員 三省堂の領域別教材一覧は全体を見る中で、領域を意識していくことは大事。光村図書は「学習の見通しを持とう」は学習の流れの中で、領域に加えそれぞれの題材がどのような視点で、学習していくのかの構成が載っていることは、生徒たちも先生も見通しを持てる。
- 委 員 質問だが、東京書籍の本編・基礎編・資料編の3部構成は先生にとって使い勝手はどうか。使いきれぬのか。全部見ないと厳しい。その辺はどうか。
- 指導主事 3部構成は東京書籍の特色である。3年生には、「黄金の扇風機」、「サハラ砂漠の茶会」という読み比べをする2つの教材がある。P102に言葉の力のコーナーがあり、読み比べて自分の考えをまとめる際の学習のポイントが示されている。また、P104の学びの扉のコーナーでは、比較する際の具体が示され、国語以外の教科に活かせるように取り上げられている。また、P234の基礎編学びを支える言葉の力では、比較することがどういうことか具体的に詳しく掲載されている。調査員から、生徒が学んだことを確認できるので、使いやすいとの意見があった。
- 委 員 東京書籍では、実生活の言語活動を支える基礎的な力が鍛えられるように、他の教科・領域ともつながりがあるのは良いと思う。

委員 東京書籍にあるメディアリテラシーは、他の出版社にはあまり見られなかったがどうか。

指導主事 全社にメディアリテラシーがあるかどうかの調査を行っていない。3年間読書教材として入っているのは東京書籍の特色と言える。

委員 他社にもあるが、3年間通して系統的にあるのは東京書籍の特色ということか。

指導主事 そうである。

委員 今の社会、中学生の話題にあっていると思う。

委員 三省堂の領域別教材一覧に言語活動が示されているが、言語活動を通して学習するのは、生徒にも経験の浅い先生にも役立つ。

委員 光村図書は小中9年間を見通したことが趣意書にある。小中一貫とのこともあり、教材なども9年間を見通すことも一つの視点になるのではと思う。鎌倉の生徒にはとてもふさわしいと思う。

委員 光村図書の先ほどの部分は、調査資料のP3の構成・分量の2つ目にあたると思う。資料が、子どもたちにとって、前半の部分での繋がりや何かを進めていく考え方など、良くまとまっているのは、東京書籍、三省堂だと思う。調査書にもあるが、東京書籍は子どもが主体的に学習できるような教材、三省堂は学習を発展させられるように工夫されている。

委員 東京書籍では、情報の調べ方で、インターネットや新聞を扱い具体化されている。授業で扱い、子どもたちが読み、更に自主学習できるという点で、東京書籍と三省堂が充実している。

委員 学校図書は抽象と具体の2つはこの単元で学ぶべきこと、今日やることが分かりやすい。

委員 中学生にとって進路選択は大事な領域なので、学校図書の進路や職業の選択につながるものがあるのは良い。

委員 教育出版は、小・中の接続を意識した所がよい。

委員 光村図書の「学習の見通しをもとう」は東京書籍と同じことが言える。三省堂と同じように学習の見通しが持てる。

委員 教育出版の古典は文章だけでなく、グラフなどが生徒の理解に役立つ。

委員 光村図書は单元ごとに身に付けた力を確認しよう、読みを深めよう、自分の考えを持とう、学習の振り返りがとても具体的に書かれている。

委員 学習の振り返りがとても大切で、これは、全国学力・学習状況調査にも出ているので良い。光村図書は視覚的に示されているので、具体的な振り返りとして良いと思う。

委員長 まとめに入る。協議を見ると、光村図書、三省堂を☆3つ、東京書籍を☆2つ、学校図書、教育出版を☆1つとすることによいか。

委員 (よい)

委員長 書写に移る。担当指導主事、お願いする。

指導主事 説明する。

【東京書籍】

- ・各教材に「目標」と、「調べよう」「確かめよう」「広げよう」の3段階からなる手引きを付け、生徒が目的意識をもって学習に取り組むよう工夫され、系統的・発展的に構成されている。
- ・毛筆教材について行書は、1年では比較的簡明な筆遣い・字形の文字とし、2年以降は少し複雑な筆遣い・字形の文字も取り入れて、発達の段階に合わせて学習できるようにしている。
- ・身に付けた書写の技能が日常に応用できることを生徒が実感できるように、「生活に広げよう」では、年賀状の硬筆や毛筆の書き方の例が示されるなど、実生活で役立つ教材を取り上げている。
- ・筆遣いの基礎・基本の定着を図るために、楷書の基本的な点画や運筆が朱墨の濃淡で示され、楷書と行書の導入教材は、半紙の実物大の手本が掲載されている。

【学校図書】

- ・巻頭に「学習の進め方」が示され、「試し書き」「練習」「まとめ書き」の後には、各単元の最後に毛筆で学習したことを意識して、硬筆で練習する「硬筆で書いてみよう」が設けられている。
- ・楷書と行書の基礎基本の定着が図れるよう、筆順や筆遣い、中心線、運筆のポイントなどがわかりやすく例示されている。
- ・「書写の窓」では、書写に対する興味・関心を引き出すために、各単元の終わりに書の歴史などの鑑賞コーナーとしての「発展」を設けている。また、美術科と関連して、「篆刻を体験しよう」を取り上げている。
- ・楷書と行書の基本的な点画や運筆が朱墨の濃淡で示され、半紙の実物大の手本が掲載されている。

【三省堂】

- ・各単元の冒頭の「考えよう・話し合おう」には、目標についての問いを設け、自ら

考えて気付いたことを友だちと話し合うことで、言語活動の充実を図ることができるよう工夫されている。

- ・行書の導入では、楷書と行書の例を指でなぞることによって違いを感じ、行書という新しい書き方を学ぶ意味や特徴を理解するために、一文字ずつ比較できるように工夫されている。
- ・「生活に生かそう」では、行事の目標やポップ、手紙の書き方が取り上げられ、目的と読み手を意識して書く力を身に付けることのできる活動となっている。生徒が見通しをもって活動できるよう、手順を示すとともに具体的な作品例を掲載している。
- ・楷書の基本的な点画や行書の穂先の動き、運筆が朱墨の濃淡で示されている。また、毛筆の手本は見開きの左ページに掲載されている。

【教育出版】

- ・各教材が「目標」と「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」で構成され、学習の進め方を示し、学習内容や手順を明確にすることで、生徒が意欲的、主体的に学習できるようにしている。
- ・毛筆教材については、行書で手を筆先に見立てて書く「なぞり書き」を取り入れた教材「大」が設けられている。また、硬筆教材については、「身のまわりの多様な文字」で目的に応じた文字を書く例が示されている。
- ・日本建築（書院造り、茶室、現代和室）で建築様式の中での掛軸、扁額、屏風としての書が写真で取り上げ、「日本建築」と「書」を結びつけている。
- ・楷書の基本的な点画や行書の運筆を朱墨の濃淡で示すだけでなく、学習のポイントとなる穂先の動きを、拡大してわかりやすく提示している。

【光村図書】

- ・各教材には、はじめに「目標」と学習内容を自己評価する「学習をふり返ろう」が示され、見通しをもって学習できるようにしている。
- ・毛筆教材について、1年の楷書では問題形式で文字の特徴や書き方の例が取り上げられ、教科書に書き込めるよう工夫されている。また、硬筆教材について、資料編に手紙、願書、ポスター、レポートなどの書き方の例が示されている。
- ・コラム「デザインと文字」では、手書きと活字、それぞれの特徴を踏まえた上で、場面や目的に応じて効果的に使い分けることの大切さを、デザイナーや作家の言葉から感じ取ることができるよう工夫している。
- ・楷書の基本的な点画や運筆が朱墨の濃淡で示されている。また、行書の導入では、見開き3ページを使い、楷書との筆遣いの違いや行書の特徴について、分かりやすく示されている。

委員長 何か質問はあるか。

委 員 調査資料で構成・分量等に各社の毛筆・硬筆の取り上げ方の数の多い少ないについては、どう捉えるのか。

委員長 県の資料P8に全教材における毛筆・硬筆の教材数が数で示されている

ので、参考にできる。

指導主事 そのとおりで、分量についてはそこを基準に記載した。

委 員 調査員会では、分量についてどのような意見が出たか。

指導主事 2年生に行書が入ってくる。そこでの楷書の導入、どんな風に生徒たちに分かりやすく示しているか、表記・表現に記載した。書写の技能を学習したことで終わりではなく、各教科等で活用できるものはどのようなものが例示されているかも話題になった。単元の目標、本時の目標、身に付けたい力は何かが生徒に明示され、単元の前に振り返ることができるかどうか、どのように扱われているか、話題になったので記載した。

委員長 意見をお願いします。

委 員 書写は年間でどのくらいの時間数があるのか。

指導主事 中学校は1、2年生が20時間。3年生が10時間となっている。硬筆、毛筆の時間はその中で学校ごとに差異がある。

委 員 過去に中学校で書写をやっていないことが問題になったことがあり、現在は確実にやっている。教室にも掲示されている。

委 員 学校図書は美術科との関連、書の歴史、教育出版は日本建築、掛け軸との関連などが良いと思う。

委 員 縦使い、横使い、折込などがまざっているものは、教科書を縦横にしなければいけないので、使いづらい。

委 員 確かに見づらい。

委 員 光村図書、東京書籍は概ね見開きで、大きくするものは、最後にまとまっていて使いやすい。

委 員 三省堂の後ろに漢字の成り立ち、古代からの変化を取り上げ、文字、日本語への興味に繋がり、良いと思う。

委 員 小学生は小さい文字から考えて、大きな字を書くことがむずかしい。中学生はどうなのかわからないが、学校図書は実物大の手本があり、書きやすい。

委 員 生徒たちは、実物大が書きやすい。東京書籍は、楷書と行書の導入教材は、半紙の実物大の手本がイメージしやすい。

委 員 手本のサイズについて、逆に縦に開くと机上の配置がいっぱいで、墨をこぼしたりすることもあると思う。大きさだけではどちらとも言えず、両方良いところがあると思う。

委 員 調査資料で三省堂は、指でなぞって比較できるように工夫とあるが、行書の習得時に効果があるのか。効果があれば、非常に良いことだが。

指導主事 調査員からはそこが特長であるとの意見があり、生徒にとって分かりやすい。教育出版にはなぞり書きというのがある。

委 員 教育出版の硬筆教材は、読み物としても面白い。P10の金子みすずの「不思議」やP26の竹取の翁が載っている。字を習いながら内容の面白さも、生徒が興味を持って練習が出来ると思う。短歌や和歌を取り入れるなど、教材の面白さがある。また、光村図書も硬筆の教材が充実している。

委 員 光村図書では、行書の導入について、見開き3ページを使い、楷書との筆遣いの違いや行書の特徴について、分かりやすく示されている。

委 員 光村図書では、硬筆教材について、資料編に手紙、願書、ポスター、レポートなどの書き方の例が示されていて良い。

委 員 三省堂は言語活動で、「考えよう、話し合おう」は、ただ教わるのではなく、生徒が自分で考え、話し合いをして、組み立てるところが良い。他社にも似たものがあるが、三省堂は具体的で良い。

委 員 三省堂の資料編で手紙の構成が拝啓から始まり、かしこで終わるなどの書き方がること、時候の挨拶から始まることも生徒のうちから分かるところが良い。

委員長 まとめに入る。三省堂、光村図書を☆3つ、東京書籍を☆2つ、学校図書、教育出版は☆1つということで良いか。

委 員 (よい)

委員長 次は地理に移る。担当指導主事、お願いする。

指導主事 説明する。

【東京書籍】

- ・教科書の導入となる見返しや、各単元の導入では、学習内容に関連する写真が豊富に掲載され、学習への関心や意欲を高められるようになっている。特に世界の諸地域では、各州の自然や生活の写真が豊富に掲載されている。
- ・学習展開の初めに示された「学習課題」に対応して、見開きの学習内容を振り返り、

まとめを行う「確認」（右ページ下の机のマーク）が設けられ、説明・要約など、短時間で行える言語活動によって、学習内容をまとめ、確実に定着させるようになっている。

- ・「地理にアクセス」を設け、本文の内容を補充するとともに、その地方で見られる防災対策など、自然との共生の工夫を取り上げ、各地域の特色を理解しながら、主体的に社会に参画する意識が高められるようになっている。
- ・各編3章の諸地域学習では、世界の各州・日本の各地方において「自然環境、産業などの基本情報をおさえる概観部」→「『学習テーマ』や『追究テーマ』に沿って学習を進める展開部」→「地域的な特色をまとめる終結部」の三つの段階に分けて構成されており、目的意識を持って地域的な特色を学習できるようになっている。

【教育出版】

- ・世界の諸地域の学習では、各州の精緻な地勢図を掲載して地域を大観する学習を助け、衛星画像をはじめ、授業で効果的に活用できる地図資料が掲載されている。また日本諸地域の学習では、各地の様子や、そこに生きる人々の姿が、豊富な写真資料を中心に上げられている。
- ・本文の学習ごとに、学習課題と対応させた「ふりかえる」のコーナーが設けられ、この時間で学習したことをもとに、「ステップ1」では基礎的事項の確認・整理、「ステップ2」では地理的事象についての説明や話し合いなどの表現活動が、段階的に取り組めるようになっている。
- ・「地理の窓」を設け、本文の内容を補充するだけでなく、生徒が本文の学習から興味や関心を広げていくことができるように工夫されている。また、世界の各州や日本の各地方での事例をもとに、今日的な課題に迫る特設ページが設けられている。
- ・「日本の国土の広がり」「日本の領土をめぐって」の学習では、我が国の領域を大観するための地図をまず提示し、次に北方領土・竹島や尖閣諸島の位置や範囲について、歴史的経緯も踏まえた本文記述と併せて、位置図・拡大図と写真も用いて詳しく理解しやすい構成となっている。

【帝国書院】

- ・「日本の諸地域」と「世界の諸地域」の単元では、各地域の冒頭に生徒になじみのある有名な観光地や、地域の文化や産業などに関する写真を大きく掲載した導入写真ページが設けられ、興味や関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、これから学習する地域がどのようなところなのか、イメージをもてるようになっている。
- ・各見開きでは、学習の導入として生徒の興味・関心をひく資料と学習でおさえるべき課題「学習課題」が示され、学習のまとめとして学習内容の確認をする「確認しよう」や、知識を整理する言語活動を促す「説明しよう」が設けられており、基礎基本が定着し、自ら考察できる力が身に付けられるように工夫されている。
- ・「～の話」や「共生」「環境」「防災」の三つのテーマからなるコラムが30以上設けられているので、学習内容を深めるだけでなく、未来の社会をつくるために参考になる取組や解決への取組が紹介されている。
- ・見開きのデザインや、グラフ・地図などの資料が、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使うなど配慮されている。また、配色のみで色が区別できるようにな

っているほか、折れ線グラフなどは形をはっきりさせるため、線を太くするなどの工夫もしてあり、すべての生徒に見やすく、読み取りやすい構成になっている。

【日本文教出版】

- ・我が国の国土や世界の諸地域の地域的特色を理解するために必要な地図・写真・グラフなどの図版を、大判紙面を生かしてビジュアルに示しているのも、地域全体の特色がとらえやすくなっている。
- ・本文は原則1単位時間で見開き2ページとなっており、この見開きで何を学ぶのかが「学習課題」で明示され、右ページの側注欄に「学習の確認と活用」が設けられ、学習のポイントの確実な定着を図れるようになっている。
- ・コラム「地理＋α」が設けられているので、災害・防災、環境問題や環境保全、持続可能な社会について系統立てて学習することができるようになっている。学習を深め、本文で扱うには難しい発展学習を進められるようになっている。
- ・日本の領域についての学習では、北方領土・竹島の領土問題や尖閣諸島の位置や範囲について、歴史的経緯もふまえて、わかりやすく、詳しく解説されている。

委員長 意見をお願いします。

委 員 どれも見開きで、一単元でその中に写真と資料があり、構成がどれも似ている。

指導主事 初めに学習課題があり、最後にまとめがあるのはとても似ている。

委 員 どの教科書も使いやすくなっている。「帝国書院の技能をみがく」の中の地形図の読み取り方が充実していて分かりやすく、使いやすくて良い。

委 員 帝国書院のP148のハザードマップに鎌倉のハザードマップの一部が引用されている。また、鎌倉の電柱に海拔何メートルなどの標識が掲載されて、役立ち、鎌倉の生徒たちは興味を引くと思う。

委 員 帝国書院は、「共生」「環境」「防災」の三つのテーマからなるコラムが多く設けられている。学習内容を深めるだけでなく、未来の社会をつくるために参考になる取組や解決への取組が紹介されていて、とても良い。

委 員 質問だが、調査資料の東京書籍で「はじめの学習課題を設定し」、はどこのことか。

指導主事 P46に確認の所に右下に机のマークがあり、全編をとおり確認の所になっている。

委 員 それは確認になっているのか。

指導主事 説明、要約の形で、短時間で行える言語活動で内容をまとめるようにできている。

委員 図版は、帝国書院の写真がはっきりして見やすい。分かりやすい。生徒にとってインパクトがある。

委員 どの会社にも「学習課題」、「確認」「説明」は出ているが、帝国書院は文字で明確に「学習課題」、「確認」「説明」が示されていることは分かりやすい。生徒たちの興味を引くと思う。ただ、机のマークは分かりにくい。

委員 東京書籍のP76のアフリカの農業や工業にはどのような特色があるのでしょうかとの問いかけに、アフリカのモノカルチャー経済について次の3つのことを説明せよとあり、確認の内容なのか疑問を感じる。帝国書院、教育出版の確認は1時間の中で何を学び確認しなければいけないかが分かりやすくて良い。

委員 教育出版の調査資料で各章の終わりに学習のまとめが3ページ設けられとあるが、単元の終わりに生徒たちが復習するには充実していて良い。負担にならない。

委員 日本文教出版で地理+αが書いてあるコラムが工夫されている。

委員 学習の流れを考えると、教育出版は「振り返る」のコーナーが目につく。視覚的な意識付けとしては良い。導入からの興味付けなどのバランスからすると良いと思う。

委員 教育出版のP26、P27に気候で雨温図という表があり、ダーウィンと、クアラルンプールが載っている。日本文教出版は東京とクアラルンプール、帝国書院は熱帯のところを見るとジャカルタと東京、東京書籍はナンディと東京が記載されている。熱帯は2種類の気候があり、雨温図は教育出版のみ両方掲載されている。そのことは、教育出版が良い。領土について、日本文教出版、帝国書院は真ん中から後ろに記載がある。地理は前半が世界、後半に日本が掲載されている。日本文教出版、帝国書院には進入した外国船の写真が載っている。載っているのが良いかどうかは判断できないが、同じように見えて、違いはある。

委員 雨温図について、帝国書院のP16、日本文教出版のP137にも2種類載っている。世界の気候の中での比較は、教育出版の方が日本との比較では、比較しにくいのではないかとも思う。

委員 グラフ・地図などの資料に、見やすさ、読み取りやすさなどの配慮が帝国書院はよくされていると思う。

委員長 まとめに入る。学習のアプローチや資料の豊富さから、帝国書院は☆3つ、教育出版、東京書籍は☆2つ、日本文教出版は☆1つということで良いか。

委 員 (よい)

委員長 これより休憩に入り、午後1時の開始とする。

(休憩)

委員長 歴史から始める。担当指導主事、お願いする。

指導主事 説明する。

【東京書籍】

- ・教科書の導入となる見返しや各単元の導入では、学習内容に関連する写真が豊富に掲載されており、生徒の学習への関心や意欲を高められるように構成されている。
- ・各時代の学習を、「『時代を概観しイメージする導入部』→『通史の学習をする展開部』→『時代の特色をまとめる終結部』」という流れで構造化し、学習指導要領の目標に示された「時代の特色の理解」を確実にできるように工夫している。
- ・各時代の最後には、学習した知識・概念を確認するために「この時代の歴史の学習を確認しよう」が設けられており、定着の確認と振り返りができるように工夫されているとともに、次章で学習する内容が年表でまとめられており、歴史の流れがつかみやすくなっている。
- ・歴史上の女性を紹介するコラムが設けられ、各時代で重要な役割を果たしてきた女性について取り上げることで、男女の平等の意義について考え、自己と他者を尊重する態度が養えるように構成されている。

【教育出版】

- ・小学校で学習した歴史上の人物や文化遺産を振り返りながら、時代区分や年表の見方を確かめる作業活動が位置づけられており、中学校第1学年の学習へなめらかな接続が図られるように構成されている。
- ・タイトルには、学習内容を象徴的にイメージさせる主題と学習事項を示す副題がつけられており、併せて「学習課題」を明示することで、生徒が課題意識をもって学習に取り組めるように構成されている。
- ・各章末に設けられた「学習のまとめと表現」のページでは、時代の移り変わりを大観する構造図を掲載するとともに、その時代の特色について考察・表現する活動の例が示されており、このページは、次の章の扉と合わせ、時代の変化に着目する学習の導入として扱うことができるように工夫されている。
- ・社会科の基礎的・基本的な技能の習得を図るために、本文の学習の流れに即した「読み解こう」のコーナーが設けられ、歴史資料を読み取り、考察する学習活動が重視されている。

【清水書院】

- ・ はじめて系統的に歴史を学ぶ生徒の発達の段階に考慮して、歴史的事象を丁寧に、平易な文章で説明されている。
- ・ 各テーマは見開き 2 ページで構成されており、学習の指針となる問いかけとまとめの問いかけが設けられているので、これらによって学習目標を明確化し、生徒が学習内容について理解と考察を深められるように構成されている。
- ・ 章扉において、各章で扱う時代を代表する写真、小学校で学んだ事項に関する写真を配置し、それらを読み取ることでこれから学ぶ時代の特色を予測し展望できるように工夫されている。また、問いかけによって、その章での学習目標が示されている。
- ・ 歴史を主体的に学習できるよう、歴史学の方法論に関する特設ページ「歴史のとびら」が設けられ、各種史料の扱い方、読み取り方や歴史研究における留意点などが示されているとともに、本文ページで扱った歴史的事象をさらに深め、当時の社会・文化などを多面的に読み解き考察するため、「もっと知りたい歴史」のページが設置されている。

【帝国書院】

- ・ 各時代の生き生きとした人々の姿をイラストにした「タイムトラベル」が設置されており、ビジュアルで迫力あるイラストによって、生徒が興味・関心や課題意識をもって学習に取り組めるように工夫されている。また、たくましく生き生きとした過去の人々の営みや当時の様子をイラストから発見し、それらの歴史的な意味について考えることができるように構成されている。
- ・ 各部の終わりには「学習をふりかえろう」が設けられ、生徒自身が「時代を大観し表現する活動」（言語活動）がしっかりと達成できるように構成されている。また、「確認しよう」では、学習してきた知識の習得をはかり、「説明しよう」では、習得した知識を活用した上で、時代の特色を話し合い、それを表現する活動を行えるように工夫されている。
- ・ 琉球（沖縄）やアイヌの人々の立場から歴史を捉える視点も重視されており、日本列島の辺縁の歴史もわかりやすく記載されている。
- ・ 判型を A B 判にして紙面をワイドにすることで、大きな写真を掲載し、歴史への興味・関心を促すように工夫されている。また、地図や年表なども大きく見やすく提示するとともに、各見開きの紙面の使い方が整理されている。

【日本文教出版】

- ・ 各編の冒頭に、図版と世界地図が設けられ、日本の歴史の背景となる世界史との関連が示されている。世界、特に東アジアのなかで日本史をとらえ、広い視野をもって、多面的・多角的に歴史をとらえることができるように構成されている。
- ・ 見開きページの左側に「学習課題」が明示されており、右ページの側注欄に「学習の確認と課題」が設けられており、学習のポイントが確実に定着するように構成されている。また、キーポイントには、見開きで学習のポイントとなる語句が示されており、「学習の確認と課題」を行うときに活用できるようになっている。
- ・ 「先人に学ぶ」「歴史を掘り下げる」などで、教科書本文の内容を補充・深化させ、今日的課題の歴史的背景や、地域・先人に学ぶことが重視され、歴史に学び、そこ

から自分たちの生き方に生かしていく態度を育成できるように構成されている。

- ・本文中のルビはすべて読みやすいゴシック体にするほか、図版中の配色や体裁にいたるまで、カラーユニバーサルデザインに配慮した紙面になっている。

【自由社】

- ・歴史を単なる事実の羅列ではなく、意味のある一貫したストーリーとなるようさまざまなコラムが設けられており、さまざまなエピソードにより歴史を多面的・多角的にとらえられるように構成されている。
- ・コラム「外の目から見た日本」や「人物クローズアップ」が各時代に掲載され、読み物資料を通して、生徒の興味・関心を高めるための工夫がされている。
- ・近現代史は、人物を中心とした資料構成となっており、人物についての資料が豊富に掲載されており、資料を通してその人物の考えや功績等を知ることができるようになっている。
- ・各章の終わりに「歴史マメ辞典」が設けられており、授業で学んだ用語が解説されている。また、巻末に歴史年表が横書きで表されており、年号と西暦の早見表がついているので、生徒にとってわかりやすい構成になっている。

【育鵬社】

- ・近代史は、人物に関する図版が多く、人物の考え方や功績等を学ぶことによって、その時代の特色がつかみやすくなっている。
- ・各章の冒頭に各時代の歴史の大きな流れが一目でわかる「歴史絵巻」が設けられており、鳥の目で歴史の流れが大観できるようになっている。また、「〇〇の世界へようこそ！」で、各時代を象徴する歴史的事象をズームアップして、虫の目で時代の特色をつかめるようになっている。
- ・女性の活躍にも注目しており、各章の終わりに「なでしこ日本史」のコラムが設けられ、北条政子や静御前など、各時代で活躍した15人の女性を取り上げ、生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるようになっている。
- ・各章の「学習のまとめ」や巻末の「歴史学習のまとめ」では、学習した内容を活用して、各時代の歴史を大観し、表現する活動を通して、生徒の思考力・判断力・表現力を高めやすくなっている。

【学び舎】

- ・各章の扉ページでは、世界を俯瞰できる地図の上に、その時代ごとに設定したテーマに基づいて、世界の状況がビジュアルに示されている。年表ページでも日本と同時代の世界の事項が丁寧に記載されている。
- ・各ページの表題や文章の書き方が工夫されており、当時を生きた人間の視線が重視され、その時代を生きた人々の姿が記述されている。また、歴史的記述も多いので、生徒の興味・関心を引きやすくなっている。
- ・各部に設定されている学習のまとめでは、時代の特色と時代の転換をふりかえりながら大観し、言語表現活動が行えるように構成されている。
- ・資料が豊富なため、教師がさまざまな切り口で授業を展開できるようになっているとともに、生徒が自ら疑問を見いだして、追究することができるように工夫されている。

- 委員長 意見をお願いします。
- 委員 帝国書院の章の冒頭のタイムトラベルが良い。イラストが載っていて、授業が膨らみやすい。まとめのページで、「学習を振り返ろう」に地図が必ず出ていて、地理と歴史の関連があって、工夫されていて良い。生徒にとってとても使いやすいと思う。
- 委員 AB判が良い。
- 委員 調査資料に東京書籍の歴史の流れが分かりやすいとあり、生徒たちにとってはとても良い。イラスト、文字が視覚的に見ても見やすい。
- 委員 東京書籍の調査資料にまとめのつくりが導入で扱いやすいとある。特長だと思う。
- 委員 東京書籍のページ左下に世界史、日本史の時代に比較がされている。主観がなく、記述のみで先生により生徒への影響が異なる。帝国書籍は「郷土を愛する心を育てる」がプラスされ、偏った書き方をしていない。また帝国書籍は資料、写真が一番興味を引く。
- 委員 教育出版は、「読み解こう」のコーナーが設けられていて、資料の読み取りや、考察する活動を大切にするよう工夫されている。
- 委員 教育出版の特徴は、ほかにも小学校で学習した歴史上の人物や文化遺産を図示して、中学校への学習へなめらかな接続がする工夫がされている点もあると思う。
- 委員 学び舎の切り口が面白い。P98 織田信長の写真で誰も見たことがない写真を使っている。読み物としては面白い。教科書としては難しいと思う。育鵬社のP282の人物名索引、知らない人の名前が多く読み物としては面白い。中学校、高校を考えたときにこの教科書にしか載っていない人物を学習するのは、いかがか。さらに高みを目指すなら良いが、“みんなに”という観点だと難しい。
- 委員 先ほども出たが、帝国書院は、各時代の生き生きとした人々の姿をイラストで表している「タイムトラベル」があり、生徒が興味・関心を持つ内容になっていてとても良い。
- 委員 自由社は100字の用語解説が特徴。生徒がちょっと調べるのにとてもよい。巻末の年表が横書きで使いやすい。
- 委員 日本文教出版は一番上に書いてある世界史の中で、日本の歴史の地図、授業の中で確認するには、とてもいい。

- 委員 清水書院は読むべきものが、ある程度真ん中に集約され、適量で読みやすい。東京書籍は、女性コラムで当時のことが良く書かれている。膨らみのある授業ができる。
- 委員 東京書籍のコラムがとても良いと思う。時代のことがわかる。東京書籍は、総合的に考えてとても使いやすい。
- 委員 東京書籍の流れで、見開きで左側に年表があり、見やすく、関心が持ちやすい。
- 委員 東京書籍は、各時代の特色を理解できるよう、『時代を概観しイメージする導入部』→『通史の学習をする展開部』→『時代の特色をまとめる終結部』という流れで構成しているところが大きな特徴になる。
- 委員 地理でも出た帝国書院の図版が鮮明で見やすい。インパクトも強い。
- 委員 日本文教出版では、見開きの左のページの爪見出しが世紀、時代を表し、右のページ下には学習の「確認」「活用」が示されていて、とても分かりやすい。
- 委員 教育出版は左ページに上のところにスケールがあり、どの時代を学習しているかがわかりやすい。授業で上手に使える、基礎・基本の定着にとっても良い。
- 委員 育鵬社の歴史絵巻は工夫されているが、漫画的なのでどうかと思うが、1年生の冒頭で扱うには入りやすいイラストである。
- 委員 自由社はB判で読み物が豊富である。使い方により、発展的な学習ができる。
- 委員 帝国書院では、郷土を愛する心という面で片寄っていない。内容の扱い方についてバランスが良いと思う。また、資料と写真の面白さがある。
- 委員 学び舎は調査資料にあるように、表題が例えば「どこまでも続く大名行列」など、生徒の興味の持てそうな表題になっている。
- 委員 生徒自身が書き込め、考えるヒントが示され、自学自習ができるので、他と違い面白い。
- 委員 帝国書院の特徴として、時代の特色を話し合ったり、表現する活動を行えるように工夫されたりしているところが挙げられる。指導主事の説明にもあったが、「時代を大観し表現する活動」は大切な活動であると思う。

委員長 それではまとめる。評価が高かったのは、東京書籍、帝国書院を☆3つ、教育出版、日本文教出版を☆2つ。清水書院、自由社、学び舎、育鵬社を☆1つということで良いか。

委 員 (よい)

委員長 公民に移る。担当指導主事、お願いします。

指導主事 説明する。

【東京書籍】

- ・本文での学習内容を補充する「公民にアクセス」が設けられており、関連した知識を確実に習得できるよう工夫されている。特に、我が国が抱える領土をめぐる問題の現状について取り上げられており、我が国の領土について正しく理解し、解決に向けての意識を高められるように構成されている。
- ・本文での学習内容を深化させた「深めよう」が設けられ、本文の内容を基礎にして、学習をさらに掘り下げられるように工夫されている。
- ・各章や1単位時間の学習を、「学習に興味・関心を持たせる導入部→学習を進める展開部→章の学習をまとめる終結部」という流れで構造化し、基礎的・基本的な知識や概念を確実に習得できるようにしている。また、導入部と終結部の教材に関連性を持たせることで、章の学習の流れを明確化し、章の学習の成果を終結部で活用しやすく工夫されている。
- ・冒頭の「公民の学習の初めに」では、地理・歴史教科書の資料を掲載し、両分野の学習内容と公民的分野とのつながりを示すことで、地理・歴史と公民との円滑な接続を図れるよう配慮されている。また、他分野との関連を示す「分野関連マーク」を付すことで、3分野の学習を通じて社会科としての学習の目標を達成できるように工夫されている。

【教育出版】

- ・本文の学習から興味や関心を広げていくコラム「公民の窓」のほか、さらにテーマを深く掘り下げて考える「読んで深く考えよう」などのテーマ学習のページが設けられ、個に応じた学びへのアプローチが行われている。
- ・見開きのページのはじめに、学習内容を象徴的にイメージさせる主題と、学習事項を示す副題をおき、併せて「学習課題」を明示することで、生徒が課題意識をもって学習に取り組めるように構成されている。また、「振り返り」や「読みとこう」のコーナーを設けて、学習内容が定着するように構成されている。
- ・終章「私たちにできること」では、社会科のまとめとして地理や歴史の学習もふまえながら、持続可能性を妨げる今日的な課題とその解決について探究することができるよう工夫されている。
- ・巻頭の「点字のしくみ」では、実際に触って体感できる点字の加工を施し、共に生きる社会のあり方について関心を高めるように工夫されており、生徒が自らも社会を形成していく市民の一人であることへの自覚を高めることができるようになっていく。

【清水書院】

- ・本文の補完または具体的な展開例として、「もっと知りたい公民」「深める公民」が全編の各所に配置されており、本文で記された社会的事象や現代的課題について多面的・多角的に考察を行うとともに、作業学習・調べ学習などを行うためのページとして活用できるよう工夫されている。
- ・冒頭に、まえがきとして「学習のはじめに」が設けられており、「公民って何だろう」と生徒に問いかけることで、公民的分野の導入として、生徒の興味関心を喚起するだけでなく、地理的分野や歴史的分野の学習の成果の上にたつ公民的分野の学習ということが明確になっている。
- ・学習の締めくくりに「卒業論文を書いてみよう」が設けられており、公民的分野の学習が小・中学校社会科のまとめに位置することが考慮されている。
- ・ユニバーサルデザインの文字が使用され、できる限り多くの生徒にとって読みとりやすい教科書となるよう配慮されているとともに、図版、地図などは読みとりやすい配色となっている。

【帝国書院】

- ・学習の導入資料として、「クローズアップ」というコーナーが設けられており、見開きの最初に具体事例を配置することによって、生徒が驚きや共感をもって学習を進められるように配慮されている。
- ・各部の初めに、「学習の前に」が設けられており、大きなイラストや資料からの読み取り作業を行うページを設けられているので、生徒一人ひとりが自分なりにイラストから学習内容に関する事象を探し出し、主体的に学習に取り組む意欲を高められるようになっている。
- ・「確認しよう」「説明しよう」が設けられ、本文や資料で学習を進めたのちには、見開きの最後に学習内容を本文などから確認する作業をすることができるようになっており、知識が定着しやすいように配慮されている。
- ・学習の最後には、これまでの学習を振り返って、知識をしっかりと理解する「学習をふりかえろう」のページが設けられているだけでなく、学習内容をふまえて自分の言葉で説明する言語活動についての作業も行えるようになっている。

【日本文教出版】

- ・巻頭の「日本の現代史年表」「現代の世界のようす」では、地理や歴史の学習成果を振り返りつつ、公民の学習との関連が示唆されており、「公民との出会い」では、夜の地球の衛星写真と火をモチーフにした写真を掲載し、持続可能な社会への関心を高めるように工夫されている。
- ・本文は1授業時間＝見開き2ページとし、この見開きで何を学ぶのかの「学習課題」が明示されており、右ページの側注欄には、「学習の確認と活用」が設けられており、学習のポイントの確実な定着が図られるよう構成されている。
- ・「チャレンジ公民」という特設ページが設けられ、ディベートの手法やロールプレイの手法、議論の手法を用いて、生徒が自ら問題を解決する学習ができるよう工夫されている。
- ・学習の締めくくりとなる「わたしたちの課題」の単元では、レポートづくりを行う際の具体的なテーマと作成手順を数多く提示し、主体的に社会の形成に参画し、そ

の発展に寄与する態度を養えるように配慮されている。

【自由社】

- ・ 補充的な学習や発展的な学習を行うためのコーナーが設けられており、「ミニ知識」では、本文に関連する補充的な学習を強化することができ、「もっと知りたい」では、発展的な学習ができるように配慮されている。
- ・ 生徒の興味関心を高めるために、「紹介する人物」の目次が掲載されており、興味を持って学習を深めることができるように配慮されている。また、読み物資料の数も多く、生徒が興味関心をもちやすい構成になっている。
- ・ 3年間のまとめとして、「ディベートをやってみよう」「レポートと卒業論文をつくろう」というコーナーが設けられており、自分で考え、調べ、まとめる表現する活動が取り入れられており、生徒の言語活動が充実するよう配慮されている。
- ・ 国民の財産と生命を守り、国家主権を守るための国防問題や、国家主権の問題として領土問題について数多くふれられており、愛国心や公共の精神をつかみやすい内容になっている。

【育鵬社】

- ・ 「理解を深めよう」や「やってみよう」では、地域の祭りについて調べる活動を通して、個性豊かな文化の創造を図る日本人を育成するために、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるように工夫されている。また、グローバル化の時代の国境をこえた文化の交流と文化の多様性についても紹介されており、自国だけでなく、他国の文化も尊重する態度を養えるように配慮されている。
- ・ 見開きごとの「学習のまとめ」（右ページ下の鉛筆マーク）に取り組むことにより、毎時間の学習の中で無理なく生徒の思考力・判断力・表現力を育めるように工夫されている。
- ・ 「社会科のまとめ」として、テーマを決めて、レポートを作成する活動を通して、持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせることに力を入れている。
- ・ 新聞記事が多数掲載されており、自分たちが生きている社会を教材にすることで、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てるように工夫されている。

委員長 意見をお願いします。

委 員 東京書籍の経済の最初の「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」が、経済単元の導入としてとても良い。各章の「深めよう」のコーナーが充実していると思う。最も使いやすいと思う。

委 員 入試が終わってどんな学習をするかが問題で、「卒業論文を書こう」はこの時期の活動のヒントになる。数社にもあるが、良いと思う。実際に本校で生徒たちが、興味を持って取り組めた。

委 員 東京書籍は歴史と同様、導入部→展開部→終結部という流れの構成で、基礎的・基本的な部分を習得できるようにしている。

- 委員 清水書院「もっと知りたい公民 深める公民」が、学習した内容にちょっとプラスできるのが、良いと思う。
- 委員 帝国書院の内容の一番下のトライアルのテーマが7つあり、課題の解決を促す記述がある。P64、P65に新聞について知ろうというメディアリテラシーが切り口として役立つ。「赤字路線バスに税金を使う」も良い
- 委員 公民の授業では「もっと知りたい公民」「トライアル」などの資料や知識を深めたりする部分は、授業で取り上げるのか。
- 指導主事 すべてを取り上げるわけではない。学習の進捗状況などに応じて、取り上げる。生徒たちが自分で勉強したり、授業で取り上げたり、さまざまである。
- 委員 どれも流れがあり、資料があって、そういうものがたくさんあった方が指導者として、扱おうとか、取り上げようとかにつながる。法律のとりあげ方がそれぞれ違う。
- 委員 東京書籍は、東日本大震災からの復興や防災対策などについて、多様な観点から考えるために、資料や「岩手県釜石市の中学生に学ぶ」などの具体的事例が掲載されていて、とても良い。
- 委員 育鵬社のやってみよう、考えよう、情報を考える新聞のコラムが課題を与えるきっかけとして思考力・判断力・表現力の育成につながる話し合いの練習になるのでとても良い。
- 委員 日本文教出版の「チャレンジ公民」「情報スキルアップ」の特設ページ、明日に向かってのコラムや現代的課題社会の中で考えさせることの扱い方が良く、うまく使えばいろいろな展開ができる。
- 委員 日本文教出版のコラムなど生きるためのごく基本から入っていて、良い。あまり新聞を読まない生徒たちにとっては、公民が身近に感じられる。
- 委員 自由社は見開きで題材が分かりやすく、左上に「学ぶべきこと」右下に「ポイント」がまとめられ、分かりやすい。学ぶべきことが確認できる。
- 委員 育鵬社は授業を終えてからの振り返りに役立つ。
- 委員 帝国書院では、巻頭の世界地図の印刷や図版が鮮明である。
- 委員 帝国書院は学習の最後に学習の振り返えられるよう「学習をふりかえろう」のページが設けられている。また、学習をふまえて自分の言葉で説明する言語活動を大切にしている。

- 委員 東京書籍、帝国書院は章、部が簡潔に示されている。自由社の投げかけも良い。日本文教出版の課題の明示も適切で
- 委員 東京書籍は、地理や歴史で学んだことが生かせるよう「分野関連マーク」で関連を示してあり、学びが広がる。社会科としての学習の目標を達成できるよう公民にも地理、歴史を取り入れるように工夫がされている。
- 委員 日本文教出版は、特設ページにディベートやロールプレイ、議論の手法で自ら問題解決できるよう工夫されている。
- 委員 教育出版のP207 終章に「私たちにできること」で中学生に出来ることを考えさせ、大人になるために考えさせることは大切なので、とても良い。
- 委員 同じく最後に考えさせるよううまく導かれている。また、最後の「欧文略称」のコーナーは一つにまとめ、入試勉強にも学習にも良い。
- 委員長 まとめに入る。評価が高かったのは東京書籍を☆3つ、帝国書院、日本文教出版を☆2つ、教育出版、清水書院、自由社、育鵬社を☆1つとする。それで良いか。
- 委員 (よい)
- 委員長 地図に移る。担当指導主事、お願いします。
- 指導主事 説明する。

【東京書籍】

- ・社会科の学習を深められるように、地図をはじめ、グラフ・写真などの資料をバランスよく掲載している。特に、世界のアジア州、ヨーロッパ州、北アメリカ州など、授業で扱うことの多い地域については、資料を豊富に掲載している。
- ・「世界」と「日本」と大きく2つに分けられ、それぞれ「一般図」、「全体の資料」、世界の各州・日本の地方ごとの「基本資料」、「テーマ資料」で構成され、学習場面で使用する資料を明確にすることで、学習効果を高める工夫がされている。
- ・特に日本との結び付きの強いアジア、ヨーロッパ、北アメリカの各州には、見開きの鳥瞰図を掲載し、生徒が自然地形のイメージをとらえやすくなっている。
- ・関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」が設けられ、複数の資料を関連させて見ることが促され、学習に広がりを持たせるように工夫されている。
- ・テーマごとに資料を検索できる「資料さくいん」が新設され、教科書での学習内容に適した資料が探しやすいように工夫されている。

【帝国書院】

- ・世界・日本の諸地域に関する幅広い知識が習得しやすいように、美しい地図と自然環境、民族や宗教、農業や工業などの産業、人々のくらしのようすなどがわかる資

料図は量が豊富に掲載されている。

- ・地域のすがたをより具体的に捉えられるように、鳥瞰図や衛星画像が多用されており、P125の「東京湾臨海部の開発」では、2020年東京オリンピックの会場予定地や、開発の様子が臨場感をもって捉えられるように工夫されている。
- ・随所に学習課題「地図をみる目」、「やってみよう」が設けられ、地図帳を活用していくための基礎的・基本的な知識・技能が習得できるように工夫されている。
- ・地図帳の活用を通してその能力を伸ばしていけるように、資料図の読み取りをしやすくするため、一つの図の記載要素を極力減らし、複数の図から総合的に読み取れるように工夫されている。

委員長 意見をお願いします。

委 員 帝国書院は最初のページを見ると見やすい。帝国書院の鳥瞰図がイメージをつかみやすい。帝国書院にあり、東京書籍にない位置図。東京書籍の位置図は全体との関係を把握できて良い。

委 員 東京書籍の地図は、アジア、ヨーロッパ、北アメリカの各州に、見開きの鳥瞰図が掲載されていて、イメージしやすい。

委 員 帝国書院の「やってみよう」は生徒たちの理解が深まる。

委 員 歴史分野との関連はどうか。

指導主事 帝国書院はP105以降の索引から、歴史分野との関連がより分かりやすくなっている。

委 員 帝国書院では今日の世界各国があり、繋がっていたのではないかなど、興味を持てるのではないか。

委 員 帝国書院のP31、P32に大陸から日本を見た図があり、イメージをもてる。

委員長 それではまとめる。帝国書院を☆3つ、東京書籍を☆2つとする。それで良いか。

委 員 (よい)

委員長 数学に移る。担当指導主事、お願いします。

指導主事 説明する。

【東京書籍】

- ・Qでは、既習事項をもとにして調べてみたり、考えてみたりといった数や図形の性質を見出す活動、数学を利用する活動を促し、数学的な思考力や表現力の育成が図

られている。

- ・基本の問題では、節の学習を終えた段階で基礎的な内容理解の確認、定着が図れるようにしている。学習の定着が不十分なときには、例などに戻って確認できるスパイラルな学習の工夫がされている。
- ・「学び合い」では、式や図を使って数学的に説明し伝え合う活動に焦点を当てた活動ができるよう工夫されている。また、右ページ始まりにして、次の展開が見えないように構成されている。
- ・「社会とつながる」では社会や職業における数学の活用を、「教科とつながる」では他教科の学習への数学の活用を取り上げ、数学を学ぶ意義や有用性が実感できるような題材が取り上げられている。

【大日本図書】

- ・「見いだそう」「利用しよう」では、生徒自身がこれまでに学んだことをもとに予想することや、課題を解決する見通しを持ち、計画を立て実行し、結果を考察・判断したりすることができるよう工夫されている。
- ・側注に「思い出そう」を設定し、既習事項を振り返ることが容易にできるよう工夫されている。また、説明文や解法が示されている基本問題数が多く取り上げられている。
- ・課題解決の過程では、多様な考え方を取り上げるようにし、説明し合う活動や互いの考えを紹介し合う活動を取り入れ言語活動の充実が図られるよう「伝えよう」が設けられている。
- ・直接、教科書に書き込めるスペースが広く設定されており、自分の考えなどを図や言葉で表現していくことが容易になっている。

【学校図書】

- ・「見つける」「活用する」などでは、主体的な学習方法により学ぶことができるようになっており、どのようなことを目的とした数学的活動を行うのかが、明確に示されている。
- ・単元の導入時に「ふりかえり」として、その単元に関連した既習内容の確認などが設けられ、興味・関心や見通しを持てるようになっていく。また、章のまとめの問題では、習熟度に応じて取り組めるように、問題の程度によって基本、応用、活用に分けて構成されている。
- ・導入問題や問で、特に言語活動を通じた学習が有効な課題では、伝えるマークが示され、積極的に話し合いや説明し合えるよう工夫がされている。
- ・「課題学習・自由研究」では、日常的な社会問題や課題などとして、環境問題や福祉に関連する内容が取り上げられている。また、「クローズアップ」や「活用」では学習内容に関連する職業について表記され生徒の興味・関心を喚起するようにしている。

【教育出版】

- ・「みんなで数学」では、数学的活動を実現するために、具体的な授業展開が例示されている。また、「伝えよう」「話し合おう」などでは自分の考えを説明したりする場面や、他者の考えを聞いたりする場面が設けられている。
- ・章の最初には既習事項を確認する「○章を学習をする前に」を設け、章の最後には

その章の基礎的・基本的事項を穴埋め形式でふり返りができる「学習のまとめ」が設けられている。

- ・エコキャップなど環境に配慮した問題や地震の大きさを表すマグニチュードの問題や、濃度などで理科との関連を扱い、数学を日常生活や社会に利用する課題や話題を多く掲載している。
- ・章の導入課題「Let's Try」では、教科書の紙面を使って活動ができ、生徒が抱いた疑問を足がかりに新しい章の学習に入りやすいよう構成されている。

【啓林館】

- ・数学的活動について、各節のはじめに取り上げられている。その中で、「身のまわりへひろげよう」では、数学を様々な場面で利用する活動のよさを感じながら主体的に学習が進められるように場面が設けられている。
- ・新たな内容を学習する際に、すでに学習した関連する内容が「ふりかえり」で取り上げて理解が深められるようにしている。
- ・「自分のことばで伝えよう」では、考え方や理由を述べさせる場面が設けられている。また、「みんなで話し合ってみよう」では、いろいろな答えや解決方法がある場合を取り上げ、説明し伝え合う活動を促している。
- ・本冊のほかに、Math Navi ブック(別冊)があり、本冊の各章の学習と関連のあるこれまでに学んだ内容や各章の学習を活用した場面などを取り上げ、学習の幅をさらに広げ、深める構成になっている。

【数研出版】

- ・「見つけよう」「活用しよう」などのマークをつけ、数学的活動を通した学習の場面がわかりやすく示されている。段階を追った説明と生徒の気づきや理解を促す発問などにより主体的に学べるようになっている。
- ・巻頭の「クイックチャージ」では、新しい学習事項の理解に必要な事項の振り返り、学びなおしを可能としている。また、必要に応じて問題演習ができるように、基本問題をまとめた「ドリルチャージ」が設けられている。
- ・「数学探検」では、LED 電球の話題を取り上げ環境問題について考えることなど、既習事項を活用して物事を考えたり、身の回りの事象から数学を見いだしたりするような話題が取り上げられている。
- ・図版やイラスト、写真が多数挿入された構成になっており視覚的にも理解しやすい工夫がされている。また、図やグラフが大きく示されており、教科書に直接書きこみができるよう配慮されている。

【日本文教出版】

- ・「見つけよう」では新たな性質などを見つける活動が、「やってみよう」では学んだことを活用して考える課題が設けられ、数学的活動を取り入れた学習活動となっている。
- ・新しい章に入る前に既習事項を確認するため、すべての章の直前に「次の章を学ぶ前に」というコーナーが設けられ、学び直しができるようになっている。
- ・「数学のたんけん」「生活への利用」や巻末の数学マイトライでは、防災、生活、情報、福祉などの内容を取り上げ、学んだことを使って身のまわりの問題を解決しよ

うとする学習活動が設けられている。

- ・紙面の外側にツメを入れて、検索しやすいように配慮されていることや、学習内容を理解しやすくするようたくさん色を使うことで、視覚的にわかりやすく構成されている。

委員長 意見をお願いします。

委 員 日本文教出版の爪見出しはカラーで、分かりやすい。

委 員 数研出版の「数学探検」は扱いとしては発展的な学習か授業で戻りながら、日常として扱うのか。

指導主事 授業に余裕がある場合は、発展的に使う。

委 員 啓林館の別冊は、使い勝手はどうか。

指導主事 別冊になっていると紛失しないか心配な面もある。調査員の報告の中にあえて授業で使わなくても良いという意見がある。

委 員 別冊は扱いづらいのではないか。

委 員 東京書籍は社会と繋がる、学ぶ意味がわかる。興味を持てる。とても使いやすい。同じく教育出版もエコキャップやマグニチュードの問題などで数学を日常生活に利用する話題が良い。

指導主事 会社により扱いやすいものと扱いにくいものがある。

委 員 導入では東京書籍の入口のところで関心を高められるものがある。啓林館にもある。

委 員 余白が広く、書き込みができる。特に図形の所は余白が多い。大日本図書も直接、教科書に書き込めるスペースが広く設定されている。

委 員 東京書籍は、「教科とつながる」では他教科の学習への活用を取り上げ、数学を学ぶ意義や有用性が実感できるような題材が取り上げられている。とても使いやすい。

委 員 数研出版の「チャージ」のところが振り返りになり良い。どの教科書もノートを取り方を教えている。その中でも、啓林館は丁寧に書かれている。

委 員 東京書籍の基本の問題では、節の学習を終えた段階で基礎的な内容理解の確認、定着が図れるようにしている。例などに戻って確認できるよう、工夫がされている。

委員 教育出版の「Let's Try」は導入の課題が面白い。生徒たちの興味をひく。入りやすい。

委員 同じく教育出版の、基礎・基本を穴埋め形式でふり返りができる「学習のまとめ」はとても有効では。

委員 数研出版では、言語活動の充実が難しいので、このような課題があると授業展開につなげられる。大日本図書も、説明し合う活動や互いの考えを紹介し合う活動を大切にしている。

委員 学校図書は最後の「調べてみよう」がとても面白い。興味を持たせようとしている。

委員 日本文教出版「数学のたんけん」「生活への利用」は数学が苦手でも興味が持てる。

委員 学校図書の「クローズアップ」は視点がおもしろく、いろいろな子のニーズに応えられる教材である。分かってしまった子が待っている間にクローズアップで勉強できる。

委員 先ほども出たが、大日本図書の「伝え合おう」では話し合い活動で言語活動の充実につなげられとても良い。

委員 東京書籍の「学び合い」では、式や図を使って数学的に説明し伝え合う活動に焦点を当てた活動ができるよう工夫されている。

委員長 それではまとめる。評価が高かったのは東京書籍を☆3つ、学校図書、教育出版、大日本図書を☆2つ、日本文教出版、啓林館、数研出版を☆1つとする。それで良いか。

委員 (よい)

委員長 次は理科だが、休憩とする。15時より再開する。

(休憩)

委員長 理科から開始する。担当指導主事、お願いする。

指導主事 説明する。

【東京書籍】

- ・実験・観察について、「予想しよう、推測しよう」で課題を発見し、実験のまとめの後では、「調べよう」「学びを活かして考えよう」で学習内容を活用した課題解決と探究へと段階をへて考えられる内容になっている。

- ・計算など、生徒のつまずきが多いと思われる箇所に例題を設け、「考え方」で順を追って丁寧に示し、その後に練習問題と確認を設けることで、段階的に理解が進むように工夫されている。
- ・単元ごとに、「学びを広げよう」として自由研究の紹介や、科学に関する本を紹介して学習を深める手がかりを示している。また、「科学でGO!」には様々なテーマの読み物教材が豊富に取り上げられていて、科学に対する関心を高めている。
- ・単元の各章の初めと最後のページに「before & after」が設けてあり、同じ問いに対して学習の前後での考えの変容を自己評価できる構成になっている。また、2学年の教科書には低気圧や前線の様子を表すペーパークラフトが付いている。

【大日本図書】

- ・「トピック」「暮らしの中の理科」「そのころの日本」「プロフェッショナル」などさまざまな種類のコラム欄を多く設けることにより、生徒の発達の段階に応じて科学に対する関心や興味が持てるように作られている。
- ・各単元の終章には、「学んだことを活かそう」として、既習の知識を整理し、目的意識をもって観察・実験を計画、実行できる。その後、自主的に分析、考察を行い、結果をまとめて説明や活用ができるようになっている。
- ・各単元の導入では、小学校での既習事項を振り返り、単元で学習する内容を見ることが出来る紙面構成となっている。
- ・「やってみよう」欄を含めると、多くの実験・観察が紹介され、学習に対して様々なアプローチができるようになっている。また、実験の際の「注意!」マークが目立つようになっている、安全にも配慮されている。

【学校図書】

- ・各章の初めに「これまでに学んできたことをチェックしよう」というページがあり、小学校の学習とのつながりを示すと同時に、既習事項の確認を行ってから単元の学習に取り組めるように工夫されている。
- ・「植物のなかま」初めには切通しのシダ植物の植生の写真を、「科学を仕事に活かす」というコラムでは大船フラワーセンターを取り上げ、鎌倉市や近隣の地域に関わる写真や資料が取り扱われており、身近な自然体験の充実が図れるように工夫されている。
- ・実験の目的が課題として分かりやすく記載され、実験のポイントや注意の表示も丁寧に示されている。また結果、考察が分けて記載されていて、結果と考察の違いが分かり、結果を解釈する力を伸ばすよう工夫されている。
- ・「問い」「話し合ってみよう」には、「活用」・「表現」など、生徒に付けさせたい力が明示されていて、くり返しの学習を行うことで活用力、表現力が身に付くように構成されている。

【教育出版】

- ・本文に加え、本文を補足する脚注が充実しており、基本的事項から発展的事項まで生徒の発達の段階に合わせて丁寧に解説し、単元末には要点の整理→基礎基本問題→活用・応用問題に6ページを割いて学習の定着を図っている。
- ・「ハローサイエンス」では、環境や生活と科学を関連付けた内容や学習指導要領に

示されていない発展的内容などが取り上げられていて、興味をもった生徒が自主的に学ぶ手がかりとなっている。

- ・ 1年生の巻頭に理科学習の進め方を記載し、中学校での理科学習の探究活動をどのように進めればよいかを丁寧に示している。
- ・ 巻末資料では、校外の施設活用を紹介し、学校外での学習活動を紹介している。また、自由研究では「圧縮発火機を作ろう」などものづくりを紹介したり、生徒の興味を引く実験が紹介されたりしている。

【啓林館】

- ・ 実験や観察の考察を書きこむ「サイエンスアプローチ」と、用語の確認と練習問題の「ステップアップ」が別冊となっていて、教科書を見ながら効率よく学習ができるようになっている。
- ・ 生徒の興味・関心に応じて発展的な学習ができるように、学習指導要領に示されていない内容も取り上げ、発展的な疑問にも対応できるように網羅している。また、巻末の「サイエンストラベラー」では、地域ごとの題材や体験施設を紹介し、興味をもった事項について自ら探究できるようになっている。
- ・ コラム欄が充実していて、日常生活に関わる部分から、最先端の内容まで広く扱っている。また、「理科でよく使う算数・数学」では他教科との関連を、「部活ラボ」では部活動に関わる科学を紹介し、生徒の関心を高めるよう工夫している。
- ・ 1学年用のものは大きめの書体を用いて、生徒の発達の段階に応じて読みやすいようになっている。また、写真と模式図を効果的に使い分けポイントが見てすぐわかるように工夫されている。

委員長 意見をお願いします。

委 員 啓林館の青のシートは何か。

指導主事 マイノートで青のシートを載せると文字を隠せるようになっている。

委 員 東京書籍の写真が表紙、中ともに気を引き、インパクトがある。

委 員 学校図書の1学年の地震や火山に関する記述がとても詳しく、メカニズムが分かりやすく書かれている。

委 員 学校図書の3年生で太陽系の写真がきれい。職業と理科の関連付けがとても良い。

委 員 大日本図書で「注意！」マークが目立ち、実験の安全性に配慮している。

委 員 学校図書は科学と関連深い職業を紹介するコラムが多くあり、理科の学習の関連付けがされていて、学習の必要性を感じることが出来る点が良い。

委 員 学校図書は実験の課題や考察の記載が丁寧に書かれている。

- 委員 学校図書は実験や観察のポイントが非常に分かりやすく書いてあり、子ども達が進んで学習に取り組むことができるのではないかな。
- 委員 教育出版は要点の整理、基礎基本の問題、活用・応用問題、巻末の整理などが使い方により、学習の定着に使える。
- 委員 学校図書の「これまで学んできたことをチェックしよう」がとても丁寧でよい。小学校の内容と、これから学習することのつながりが分かりやすい。例えば小3で学んだことが、中1で役立っていることを生徒も先生もわかり、とても良い。
- 委員 啓林館のマイノートを確実にやることで、どのようなレベルアップにつながるかな。
- 指導主事 授業で生徒にやらせ、プリント、ノートでやることもできる。
- 委員 試験前の勉強のまとめにもなるのではないかな。
- 指導主事 そのような使い方もある。
- 委員 啓林館はブレイクタイムの頻度が多いので、理科嫌いな生徒でも見やすいように工夫してある。
- 委員 教育出版の2年生の巻末の基礎技能は使いやすい。理科はそういうことが載っていると確認できてよい。優れている。
- 委員 教育出版のハローサイエンスが後ろにまとまっていて、ゆっくり読める。考えることが苦手な子も読みやすい。食物連鎖、下水処理、持続可能な社会にするためには、とても良い内容になっている。
- 委員 東京書籍は巻頭の写真がとても良い。「何で、不思議」が理科らしくて良い。使いやすい。
- 委員 学校図書の2年生に写真で見る周期表があり、記号だけではなく、実際に何に使われているかがわかりやすく、とても良い。
- 委員 教育出版の資料の下にイラストが多い。見てとても落ち着いている。写真やイラストを見て、イラストで統一感があり、使えると思う。
- 委員 東京書籍はさまざまなテーマがあり、全員は無理でも、興味のある子には参考になる。
- 委員長 それでは、まとめる。意見の多かった学校図書を☆3つ、教育出版、東

京書籍、啓林館を☆2つ、大日本図書を☆1つとする。それで良いか。

委員 (よい)

委員長 次は音楽一般。担当指導主事、お願いする。

指導主事 説明する。

【教育出版】

- ・「学習指導要領との関連」では、全学年青、赤、緑のマークで、学習指導要領の音楽科の目標や内容を意識し、「要素を捉えながら（基礎）」、「様々な音楽文化（広がり）」、「歌い合わせ聴き深める喜び（活用）」の三つに題材が分けられており、その題材における歌唱教材と鑑賞教材のかかわりがわかるよう工夫されている。それぞれの教材には、題材のねらいに即した学習のポイントが二つずつ示されており、生徒の活動の具体的な目標となっている。
- ・「伝統・文化との関連」および「表現と鑑賞の関連」に関して、「Let's Try」のコーナーでは「民謡」や「能」「雅楽」「歌舞伎」など、鑑賞した曲の体験コーナーが設けられており、実際に演奏したり歌ったり、見得やツケなどを体験したり表現活動につながっている。
- ・「創作」の活動では、「音のスケッチ」というコーナーが設けられており、食べ物の名前を使ったリズムづくりや CM ソングづくりなど、斬新で身近なアイデアの提示が生徒の実態に合っており、生徒が主体的に興味を持って取り組めるような工夫がされている。
- ・巻末には、「楽典」として、3 学年ほぼ共通の内容が載せられており、くり返し学習することができるとともに、新出のページが掲載されているため、教材に立ち返って学習の定着を図ることができるようになっている。

【教育芸術社】

- ・「学習指導要領との関連」では、学習指導要領の「内容」に示された各領域の指導事項と教材の関連が一目でわかるよう示されており、さらに各教材の「学習の窓口」では、各教材で扱う[共通事項]がアイコンの形で示され、[共通事項]を支えとした学習を行うことができるようになっている。
- ・「伝統・文化との関連」および「表現と鑑賞の関連」に関して、「日本の民謡」、「勸進帳」や「羽衣」など鑑賞した曲の「長唄」や「謡」、「民謡」の絵譜が載せられており、実際に模範演奏を聴いて歌ったり、さらには「My Melody」のコーナーで民謡音階による旋律づくりをしたりと、鑑賞と表現の関連が図られている。
- ・「創作」の活動では、二つのコーナーが設けられ、「Let's Create!」ではリズム、「My Melody」では旋律を意識した活動が設定されている。それらのコーナーでは、サラダの材料の名前を使ったリズムアンサンブルづくりや、学校紹介の歌づくりなどをテーマとしており、生徒が主体的に興味を持って取り組めるような工夫がされている。
- ・巻末には、「音楽の約束」として、その学年で学習する内容を中心とした楽典が載せられ、学習する教材に対応して確認できるようになっている。また、「ビン

ゴゲーム」「リズムゲーム」というコーナーが全学年に設けられており、既習の音符や記号をゲーム形式で復習できるようになっており、生徒が興味関心を持ちながら既習内容の確実な習得と定着が図れるよう工夫されている。

委員長 意見をお願いします。

委員 教育出版の写真が良い。2、3年生下のアイダにおいてもオーケストラピットまでわかり、教育出版は1枚の写真から多くの情報がわかるようになっている。次ページも1枚の写真から良く分かる。文字の大きさも教育出版の方が大きく、分かりやすい。コンパクトにまとめられていて、分かりやすい。

委員 また、教育出版はそれぞれの教材に、題材のねらいに即した学習のポイントが二つずつあり、活動の具体的な目標となっているのがいい。

委員 教育芸術社の最後の「音楽の約束」は色を使っていないので、見やすい。教育出版は目がちらちらする。

委員 教育芸術社は基本的に扱うことは、コンパクトにしっかりまとまっているが、教育出版は学ぶべきことが細かく載せられているので、子どもたちは助かる。

委員 パイプオルガンを見る機会がなかなかないので、教育出版の写真は良いと思う。シューベルトが作曲した時の状況や裏側にある物語が読み物として載っていることがとても良い。

委員 教育出版の鑑賞教材で能、西洋音楽など時代が書いてあり、ページ右に色分けがされており、いつの時代の音楽か意識できるようになっており、優れている。

委員 教育芸術社の「創作」の活動に工夫がある。サラダの材料の名前を使ったリズムアンサンブルづくりや、学校紹介の歌づくりなど、生徒が主体的に取り組めるようになっている。

委員 教育出版の2、3年生下で、P50に著作権について記載がある。生徒たちは、よくダウンロードしているので、勉強になる。

委員長 それでは、教育出版を☆3つ、教育芸術社を☆2つとし、器楽との関連も見えていく。

委員長 次は器楽。担当指導主事、お願いします。

指導主事 説明する。

【教育出版】

- ・「学習指導要領との関連」では、学習指導要領の「内容」に示された基礎的な奏法を身に付け、さらには基礎的な奏法を生かして演奏することができるよう段階を追って曲が配列されている。たとえば「Let's Play!」の後に「Let's Try!」のコーナーがあり、平易な曲の後に難易度の高い曲が配列されているので、演奏技能が段階的に習得できるよう工夫がされている。
- ・「主体的に学習に取り組む態度の育成」に関して、資料や楽器の奏法の写真、教材が豊富なため、生徒が主体的に学習しやすくなっている。さらに、巻末の「ギター&キーボードコード表」には、五線譜、ダイアグラムとともに、実際に弦を押さえる写真と鍵盤図が並記されており、生徒にとって理解しやすく、すすんで取り組む意欲につながりやすいような工夫となっている。リコーダーでは、新出のアルトリコーダーを、既習のソプラノリコーダーの知識技能を生かして演奏できるように、対比させながら扱っている。また、練習曲も含めたそれぞれの教材には、具体的な活動のポイントが示されており、生徒が何を意識して練習や演奏に取り組めばよいかわかるようになっている。
- ・「伝統・文化との関連」に関しては、資料「日本の楽器と音楽」で歴史年表に日本の楽器が紹介されており、それらの歴史的背景や演奏形態を学ぶことができる。

【教育芸術社】

- ・「学習指導要領との関連」では、学習指導要領の「内容」に示された各領域の指導事項と教材の関連が一目でわかるよう示されており、さらに各教材の「学習の窓口」では、各教材で扱う[共通事項]がアイコンの形で示され、[共通事項]を支えとした学習を行うことができるようになっている。また、様々な国の音楽文化にふれ、理解を深められるよう、いろいろな国の打楽器の特徴と奏法が取り上げられている。
- ・「主体的に学習に取り組む態度の育成」に関して、QA コーナーが設けられており、学習を進める上でのアドバイスが示されている。また、生徒がそれぞれの楽器に興味関心をもてるよう、奏法や構造だけでなく、「音色」に焦点をあてた「楽器の音色を聴いてみよう」というコーナーが設けられ、それぞれの楽器によって演奏されている鑑賞曲が紹介されている。リコーダーの学習ではレッスン1から3に分けられ、それぞれの教材で使用する音域が示され、段階を踏んで学習できるような配列になっている。
- ・「伝統・文化との関連」では、それぞれの楽器に関して「楽器を知ろう」のコーナーが設けられており、楽器伝来ルートや歴史的背景などがわかりやすく示されている。また、巻末には「日本の伝統音楽の楽器編成」が掲載されており、それぞれの伝統音楽の分野で演奏される楽器の種類や楽器編成の違いが一目でわかるようになっている。

委員長 意見をお願いします。

委 員 質問だが、楽器の指導はどれをどのくらいやるのか。

指導主事 和楽器は3年間で1種類以上、何をやるかは地域によって異なり、鎌倉は琴、リコーダーをやる。

委 員 鎌倉は全校でリコーダーをやるのか。

指導主事 リコーダーは全校でやっている。

委 員 鎌倉のことを考えると、リコーダーと琴を教えやすい教科書が良いのでは。

委 員 教育出版のリコーダーの曲は、生徒が知っている曲が多い。

委 員 琴をやっているところ、やっていないところ、音楽を合唱祭に当てているところもある。生徒たちがめったに触れる機会のない名曲がリコーダーで扱われているので、教育芸術社の方が合うのではないかな。教育出版は、メリーさんの羊など扱っている曲が幼いように思う。その他馴染みのない曲が多い。

委 員 打楽器の説明が教育芸術社（P46）にあり、さまざまな国の音楽文化に触れられるが、教育出版にはない。

委員長 器楽については、教育芸術社の方が評価は高い。教育芸術社を☆3つ、教育出版を☆2つとする。それで良いか。

委 員 （よい）

委 員 美術に移る。担当指導主事、お願いします。

指導主事 説明する。

【開隆堂】

- ・学習の動機付けから学習の成果を確認するまでの一連の学習活動が把握できるように、各題材を通して生徒に育てたい力を解説文でわかりやすく「学習の目的」として示すとともに、各題材の末尾には、4観点により「学習の振り返り」が示されており、どんな力がついたか確かめながら学習が進められるよう工夫されている。
- ・鑑賞学習の導入やきっかけとなる「問いかけ」を設定し、ページの中に緑色の円形の枠で示し、鑑賞学習への興味・関心を高めるように工夫されている。
- ・美術の学習の意義を考え、美術科で育てた力を社会との関連においてどのように生かすかを学習の動機づけとし、「生きることと美術」や「平和と美術」などの題材を設定している。
- ・目次やページの左上、タイトルの前に、「絵や彫刻など」は青色のマークで、「デザインや工芸など」はピンク色のマークで、内容・領域内容を色分けして明確に示している。

【光村図書】

- ・各題材に目標を記し、授業のねらいをわかりやすく示すことで、生徒が目的意識を

持って学習できるよう配慮しており、目標の文頭にはチェック欄を設け、学習後生徒が自らの到達度を振り返ることができるように工夫されている。表現技法や用具の使い方、形・色・材料・光に関するページを「学習を支える資料」として示し、生徒自らが必要な時に発想・構想のヒントを探したり、技法や用具の使い方などを参考にしたりできるように巻末にまとめて掲載している。

- ・制作中の生徒の表情や様子を載せ試行錯誤を経て完成に至るまでを「みんなの工夫」や「作者の言葉」として示している。表現の参考となるとともに個人によって異なる感性を尊重し、主体性を高めるよう工夫されている。
- ・内容ごとに目標、〔共通事項〕の問いかけ、発想・構想のヒント、作者の言葉、日本の国宝、コラム、安全の注意、道德との関連、巻末資料へのリンク等、10種類のマーク（目次ページ）を示し、何を意識するのかわかりやすく示している。

【日本文教出版】

- ・各題材に、関心や意欲・態度に関するねらい、発想や構想に関するねらい、創造的な技能に関するねらい、鑑賞に関するねらいの4つの観点からの学習の目標を「学びのねらい」としてわかりやすく示している。生徒自身のアイディアスケッチや言葉を「作者の言葉」として随所に載せたり、活動の様子も載せたり、表現活動における発想や構想のプロセスを参考にすることができるよう工夫されている。
- ・時代や地域、民族に関わる多様な価値観に基づいて題材を構成し、道德や社会科や国語科などとの連携に配慮している。
- ・中学生の発達段階を考慮して2、3年生の教科書を上下で分け、3冊分の構成にし、絵や彫刻など・デザインや工芸など・鑑賞の領域を自己、生活、社会・自然・環境というステージで学習することを設定し、系統的に構成されるよう工夫している。

委員長 意見をお願いします。

委 員 出版社によって教科書が2冊と3冊になっているが、理由はあるか。

指導主事 日本文教出版だけ3冊。系統的に学ばせたい。ステージを3年間で系統的に学べるようにと3冊になっている。

委 員 光村図書は参考作品が豊富である。他者から比べると作品一つひとつの写真が小さい。子どもにとっては、多いほうがいいのか。

委 員 光村図書、日本文教出版は色合いがきれい。

委 員 日本文教出版は、写真、図版が一つひとつ大きいので良い。

委 員 光村図書の構成で、ゲルニカ・風神雷神を示しているのか。

指導主事 1年生の風神雷神、図屏風、ゲルニカにあたる。

委 員 それは迫力があって、効果的である。自画像は原寸大。とても良い。

委 員 開隆堂も原寸大がある。

委 員 日本文教出版は、道徳や社会科や国語科などとの連携に配慮し、題材の構成を工夫している。

委 員 先ほども出たが、日本文教出版は、どのページも図版が大きく見やすくインパクトがある。また、日本美術のページでは紙質を変えるなど工夫がされている。

委 員 日本文教出版社に掲載されている「作者の言葉」は、表現活動における発想や構想のプロセスの参考になるので、作品の構想を練る上で生徒自身のヒントになる。

委 員 開隆堂は社会の関わりがあり、一つの特長として、図工で育てた力を社会との関連において、活かすような題材になっている。

委 員 光村図書は、巻末にまとめて掲載材料から、発想・構想のヒントを探ることや、技法や用具の使い方などを参考にできるよう工夫されている。

委員長 それでは、まとめる。日本文教出版を☆3つ、光村図書を☆2つ、開隆堂を☆1つとする。それで良いか。

委 員 (よい)

委員長 保健・体育に移る。担当指導主事、お願いします。

指導主事 説明する。

【東京書籍】

- ・「新しい保健体育」では、ページの始めに、本時のねらいを明確にして学習に臨めるよう、「今日の学習」を設けている。また最後には「考えてみよう」を設けて、学習したことを活用して課題に取り組むことができるようにしている。
- ・各章の最後には、「確認の問題」や「活用の問題」といった復習のページを設け、問題形式で学習を定着させていくことができる。防災教育に関わる場所では、災害の恐ろしさのみならず、災害後の「共に生きる＝共生」に言及し、これからの社会生活を見直すきっかけを与えている。
- ・構成面では、保健編・体育編ともに、学年で区切ることで、学習範囲を明確にしており、年間の見通しをもちやすくしている。

【大日本図書】

- ・「中学校保健体育」は、全般的に図や表を多く用いており、学習内容を視覚的にも捉え易くしている。とりわけ防災に関わるページでは、写真を大きく用いており、日頃からの備えの大切さを訴えている。

- ・「トピックスプラス」は、関連するページも書かれているなど、その章での学習を多角的に捉えられるよう工夫されている。
- ・各章の最後にある「学習のまとめ」は、重要な語彙や学習の要点を網羅しており、学習を整理しやすくしている。

【大修館】

- ・「保健体育」では、各項の冒頭に「Question」を設け、学習を始めるにあたって課題意識をもつことを促している。
- ・1単位時間分は見開き2ページでまとめられており、本文の背景がクリーム色に色付けされていることにより本文を浮き出たせ、文字を見やすくしている。
- ・各章の最後にある「学習のまとめ」は、“振り返る”“生かす”“広げる”といった3段階で、知識の定着や考えを深めていけるようにしている。

【学研みらい】

- ・「中学校保健体育」は、見開きの冒頭で、学習目標とキーワードを確かめることができ、重点を明確にして学習を始めることができる。また、写真やデータの他、表情豊かなイラストを多用するなど、学習内容を身近なこととして感じられるように工夫している。
- ・各項目、各章の最後にある「活用しよう」「探究しよう」では、学習してきたことを応用して考え、視野を広げていけることが期待される。
- ・各章の最後では「用語の確認」「基礎の完成」「活用の問題」といった3段階で、学習を整理、発展させていくことができる。

委員長 意見をお願いします。

委 員 大修館は見開き2ページで、1単元が見開きで分かりやすい構成になっている。

委 員 大日本図書は、学習課題が最初に提示され、学習の流れが読み取りやすい。

委 員 学研みらいは章のまとめを、問題集的にまとめ、段階的に知識を高めるには良い。

委 員 確かに、まとめについては、学研みらいの「活用しよう」「探究しよう」が良い。指導主事の説明のように、学習内容を応用し、視野を広げられると思う。

委 員 東京書籍は、ページの体裁や色合いが目にも優しく、学習内容が頭に入ってきてやすい。

委 員 大修館の防災に関するところは、写真が豊富で、自分でも書き込めるようになっていてよい。

- 委員 東京書籍の防災教育の部分は、災害後の「共生」の必要性を謳っていて、これからの子どもたちには、是非こういう考え方をもってもらいたいと思う。
- 委員 学研みらいの保健編の導入では小学校で学んだことと高校で学ぶことが明示されている。また、オリンピックを意識し、関連の資料が巻末にも豊富にある。
- 委員 大日本図書の各章の最後には、重要な語句や要点が整理されていて、子どもたちにはわかりやすい。
- 委員 まとめ方と言えば、大修館は三段階でまとめるようにしてあり、学習した内容を整理・発展させやすく、生徒たちも使いやすいのでは。
- 委員 東京書籍は構成が学年ごとに分かれていてとても使いやすい。
- 委員 東京書籍は目次を見ると何をやるかが分かり、見通しがもてる。
- 委員 東京書籍の「確認の問題」「活用の問題」は、各章の復習になっていて、学習の定着を図るのにとってもよい。
- 委員長 それでは、まとめる。東京書籍を☆3つ、学研みらい、大修館を☆2つ、大日本図書を☆1つとする。それで良いか。
- 委員 (よい)
- 委員長 技術分野に移る。担当指導主事、お願いします。
- 指導主事 説明する。

【東京書籍】

- ・各領域の終わりに学習のまとめとして、「学習を振り返ろう」、「大切な用語」、「学習したことを確かめよう」、「生活に生かそう」を設けていて、生徒が学習したことを自分自身の生活に結びつけられるよう工夫されている。
- ・評価・活用では「環境」、「経済」、「社会」との関わりが記載され、材料と加工に関する技術の評価・活動の例が示されている。また、技術を適切に評価し、活用する学習について、ワークシート例が掲載されており、記入できるようになっている。
- ・巻末の資料として、「コンピュータの使い方」や「言葉のページ」、「防災手帳」が設けられ、家庭分野等の学習に結びつけられる工夫がされている。「防災手帳」では、卒業後も役に立つように、冊子として保存できる付録になっている。
- ・判型は幅広のA B判で、各見開きの右下にはパラパラ写真が設けられ、第一編では東京スカイツリーができるまでが掲載されており、興味・関心を高めさせるようにしている。また、ひとくちQ&Aがクイズ形式で掲載されている。

【教育図書】

- ・ガイダンス（３年間を見通して）の内容の中で、「A材料と加工」、「Bエネルギー変換」、「C生物育成」、「D情報」の学習内容がどのように学習をしていくかについて、２，３の項目で概論を示しています。
- ・各領域の終わりに「まとめ」が設けられ、学習したことを確認する手段となり、要点が示されている。「まとめ」「章末問題」では、生活に結びつけられるよう工夫されている。また、自学・自習ができるように配慮されている。
- ・評価・活用では、エネルギー問題等が取り上げられ、学んだことを生かして、自分なりに解決策などを考える内容となっている。
- ・A～Dの領域で多数の写真が掲載されていて、また、ボックス棚やLED 手元照明の製作、花の栽培など生徒が作業工程などをイメージしやすい構成になっている。

【開隆堂】

- ・ガイダンスでは「学習の目標」「安全」「環境」「豆知識」「ふり返り」（３～４）などマークの意味を簡潔に説明し、よりよい生活を創造するための道筋が工夫されている。また、授業がイメージできるように学習項目を配置している。
- ・評価・活用について、「A（材料と加工）」に材料と加工に関する技術の活かし方を考えるワークシート例が掲載されている。また、「環境」、「経済」、「社会」との関わりについて記載されている。
- ・「リンク」や「情報モラルリンク」などの関連マークを用い、家庭分野や他領域との関連がわかる工夫がされている。
- ・B５判で奇数ページの右上に工具の写真があり、偶数ページには爪見出しがそれぞれ示されている。また、脚注に多数の豆知識が掲載されているので、生徒の興味をひきやすくなっている。

委員長 意見をお願いします。

委 員 技術分野は、各学年でやる内容が、決められていない。それぞれの学校で決めている。教育図書のガイダンスの内容が簡潔にまとまっていて、分かりやすい。３年間の子どもの見通しが立てやすい。

委 員 東京書籍は章のそれぞれの領域の最初の部分で最初に学ぶ内容や小学校や他教科との関連や子どもの見通しが立てられ、各領域の終わりに「学習のまとめ」や「生活に活かそう」など始めと終わりが工夫されている。

委 員 東京書籍のサイズはA B判で発色も良く、一番分かりやすく見やすい。実物をイメージするのに、分かりやすく見やすいというのは、技術の教科書として大切な要素だと思う。

委 員 教育図書は作業工程が詳しく、今何の作業をしているのかが分かりやすい。また、注意事項も分かりやすくなっている。

委 員 東京書籍は、例などが多様でわかりやすい。コンピュータの基礎などい

つでも確認できる工夫がされている。コンピュータを使うことの大切さは、今さら言うまでもないが、今のうちに基礎をしっかり学ばせておく必要がある。

委 員 開隆堂の奇数ページ右上の図や写真が、それぞれの領域ごとになっていて、授業で使いやすい。

委 員 開隆堂は、学習のまとめや振り返りが確認できる。

委 員 東京書籍は学習のまとめとして、「学習を振り返ろう」があり、しっかり確認するにはとても良い。

委 員 東京書籍は、全体的な印象として大きくて色合いがよい。また、「環境」、「経済」、「社会」との関わりが記載されていることや、材料と加工に関する技術の評価・活動の具体例があり使いやすい。主体的に学びやすいのでは。鎌倉の生徒たちにとって、ふさわしい教科書であると思う。

委員長 それでは、まとめる。東京書籍を☆3つ。開隆堂を☆2つ。教育図書を☆1つ。それで良いか。

委 員 (よい)

委員長 家庭分野に移る。担当指導主事、お願いします。

指導主事 説明する。

【東京書籍】

- ・ガイダンスは家庭分野の学習の目標である自立と共生を目指す教科であるということを明確に打ち出し、4領域が見やすく示され、3年間の学習の見通しを持つことができるよう工夫されている。
- ・課題解決に向けて、問題を解決する道筋（課題発見、計画、実践、評価、改善、課題への取組）というプロセスの説明がわかりやすく、課題の決め方を考えるヒントが与えられている。
- ・防災について教科的側面から詳しい説明がされていたり、食糧自給率や消費者の権利など社会的状況を反映した題材などが取り上げられたりして、生徒が興味をひく内容として示されている。
- ・幅広のA B版の特性を生かし、見開きの構成として生徒が理解しやすいよう配慮されている。爪見出しの色が区別しやすくなっている。また、脚注にひとくちQ&Aがあり、楽しみながらページをめくり、学習が進められるよう工夫されている。

【教育図書】

- ・「キーワードチェック」という項目があり、各項目の重要事項をチェックし、学習のまとめに活用することができるようにしている。また、重要な語句は太字で示し、

学習しやすい工夫がされている。

- ・アレルギー物質を含む食品表示の例や消費者の声で変わった商品の例など、具体的でわかりやすい社会的状況を反映した題材が取り上げられていて、学習の深まりが期待できる内容になっている。
- ・イラストが多数掲載されていて、生徒が親しみやすく、学習を深められるように配慮されている。爪見出しに項目が書かれていて探しやすい構成になっている。
- ・ガイダンスは「自分らしく生きる」「自立した生活をする」など、わかりやすい語句を使い、教科の目指すものを理解させる工夫がされている。また、言語活動の大切さにも配慮した内容になっている。

【開隆堂】

- ・ガイダンスは小学校の学習の振り返りをさせ、教科の目指すものについて理解を深めていく内容になっている。また、写真などを多く扱い、生徒が学習のイメージを持ちやすいよう配慮されている。
- ・課題学習の進め方について詳しい解説がされていて、必要性を実感しやすい課題例が多いので、学習を深めることができるようになっている。
- ・「リンクマーク」を用いて、家庭分野の他の学習項目や技術分野等との関連やA～D相互関連した授業ができるよう、わかりやすく示されている。
- ・図・イラスト・写真が多数掲載されていて、生徒が学習を深められるように配慮されている。写真入りの爪見出しにより、生徒の興味・関心を高める配慮がされている。

委員長 意見をお願いします。

委 員 東京書籍は問題を解決する道筋が、明確で小学校の関連もあり、分かりやすい。

委 員 東京書籍はガイダンスに小学校との繋がりが示されている。4領域が見やすく、小学校との関連や最後のまとめが充実している。

委 員 教育図書は写真が少なく、挿絵が多い。P 26、P 27 に従来の家族や家庭を見開きで表し、P 34 には幼児の心身の発達と個人差が示され、1 枚の中で見渡せる点がとても良い。何を学ぶかが分かりやすい。

委 員 東京書籍にある、食糧自給率や消費者の権利などの題材は、社会的状況を反映した題材であり、生徒が関心を持てる内容になっている。

委 員 開隆堂は図、写真、イラストがほどよく配置され、興味・関心が高められるようになっている。

委 員 家族・家庭について、各社では、開隆堂は家族というテーマでP 52 の「考えてみよう」で両親・子どもが、いろいろな生徒たちがいる中で、実際に考えられない生徒もいるのでは。教育図書のP 8 で家族について、漫画の題材を使ってイメージしやすい。東京書籍の3章P 174、P 176 でたくさん

例を示して、配慮・工夫がなされている。

委員 開隆堂の「リンクマーク」は、他の学習や技術分野等との関連について、わかりやすく示されていてよい。

委員 東京書籍は、写真がきれいで、食生活の領域で調理の実習例や作り方の参考例が多く掲載されていて、とても良い。

委員長 それでは、まとめる。東京書籍を☆3つ、開隆堂を☆2つ、教育図書を☆1つとする。それで良いか。

委員 (よい)

委員長 英語に移る。担当指導主事、お願いする。

指導主事 説明する。

【東京書籍】

- ・各学年の冒頭2、3ページでは教科書の構成や教科書で学ぶことが図示され、1年間の学習で何をできるようにするかが明確にされており、生徒が学習の見通しを立てやすくなっている。
- ・学び方コーナーにおいては、各学年に合わせた学習の手順・方法が示されており、発展的な学習のページがある。辞書の使い方、5つの文構造など自分で家庭でも学習ができるようになっている。
- ・グリーティングカード、詩、レポートなど、「書く活動」について、順序・手立てが詳しく示されており、無理なく作文できるようになっている。
- ・Unit 各ページの右下に「Speak&Write」のコーナーが設けられており、コミュニケーション活動をした後、その内容に関連することを書くように活動が組み立てられている。

【開隆堂】

- ・学習文法事項を、「Basic Dialog」として会話文で示し、基本文が文脈の中でどのような使われ方をしているかや、使用場面が分かるようになっている。また、「聞く」「話す」の分野で練習した後、本文に入る形式がとられている。
- ・「My project」が学期末ごとに配置され、それまでの単元で学んだ内容を総合的に使って発信できるように工夫されている。例えば3年生では、本文で日本の食文化、伝統的なおもちゃ、お祭りなどを題材として学習した後、「My project」で日本文化を紹介する活動が設けられている。また、構想でマッピングを使用するなど、発表に至るまでの手順が詳しく記載されている。
- ・「Reading」の後に設けられている「After Reading」やグループワークにおいて、互いにアドバイスし合う「協働」の活動が多く設定されている。
- ・巻末の「英語でできるようになったことリスト」で、いつ、何が、どの程度できるようになったのかを4技能別にチェックできるようになっている。

【学校図書】

- ・ 1年生の「Pre Lesson」や「Let's Start」では小学校外国語活動での既習事項が多く取り入れられている。また、2, 3年生の「Pre Lesson」では前の学年で学習した文法事項を扱っており、復習ができるようになっている。
- ・ 「Project」では段階を丁寧に踏んで「書く活動」を行い、発表後にさらにコミュニケーション活動ができるようになっている。例えば、2年生では「将来の夢」のスピーチを5つのステップを踏んで完成させ、グループ内で発表、意見交換をするようになっている。
- ・ 「Listen & Repeat」のコーナーは、マークや記号があり、強勢やリズムに注意して読んだり言ったりすることによって、より自然な英語を身に付けるよう編集されている。
- ・ 全体的に写真やイラストがどのページにも豊富にあり、そこから内容を深めることができる。また、点字のページでは、実際に点字で表記されていて、手紙や日記は手書き風の字体になっている。

【三省堂】

- ・ 「Reading」では「Alice and Humpty Dumpty」や「A Pot of Poison」など興味を持たせる内容が扱われ、読んで理解するだけでなく朗読劇などで発表する活動をするようになっている。また、人権、平和など深く考えさせる内容も含まれている。
- ・ USEの「Read」では、「内容のおおすじをつかむ」「細かい内容をおさえる」「内容を理解する」などの活動があり、段階を踏んで内容理解をするようになっている。
- ・ 全学年で、時制を意識した文法説明がなされている。過去、現在、未来を直線で示し、視覚に訴える説明となっている。
- ・ 各 Lesson で、GET で文法理解、基礎の習得を行い、USE では、それらを使って読んだり話したりする活動で基礎を活用するよう構成されている。

【教育出版】

- ・ Hop、Step で本文を扱い、その後に、Jump で各 Lesson のまとめをし、基本本文のさらなる定着、振り返りをする構成になっている。また、別冊 Essentials では、練習問題、Activity 等で基礎の定着を図るようになっている。
- ・ Lesson 本文で扱う話題について、「Culture Notes」のコーナーで説明をしており、生徒が興味をもって学習することができるようになっている。
- ・ 各パート、各種 Tips 活動、Project 活動、Reading Lesson に「目標」が掲げられており、一つひとつ目標をクリアすることで、学力を身に付けるようになっている。また、各学年の巻末に Can-Do リストがあり、1年間を振り返って自己評価をすることができる。
- ・ 「聞く、話す、読む、書く」の4技能をくり返し練習することにより、学習内容の定着を図るようになっている。

【光村図書】

- ・ 福祉や環境、国際理解、多様な文化に関する題材が取り上げられている。また、技術・家庭科や歴史、保健体育など他教科と関連した内容も扱われている。
- ・ 1年生の自己紹介文では、小学校外国語活動での学習が活かされており、be 動詞

と一般動詞が混在した文になっている。例えば、Hi! I'm Christina Rios.
Call me Tina. I'm from New York. I like sports. となっている。

- ・本文の後にある、Try it で「聞く活動」と「話す活動」の間にドリルをもうけ、練習をすることで、基本文の定着を図っている。
- ・Let's Read にまとまった量の文が掲載されている。特に３年生では、400 語から 600 語以上の長文があり、読み物教材が充実している。また、While You Read, After You Read で課題に取り組みながら、「読む活動」ができるようになっている。

委員長 意見をお願いします。

委 員 質問だが、光村図書の「Let's read」は、どんな扱いにするのか。

指導主事 長文読解のための教材で長文に慣れることや速く読んで理解することがねらいとなっている。

委 員 どの学校でもそうか。

指導主事 長文読解の教材として扱うことになる。ただし、英文の量が多いので、得意な子には良いが、そうでない子にはハードルが高いという意見が出た。

委 員 先に課題が終わった生徒に対しての教材となるのか。

指導主事 発展的な教材として行う。

委 員 光村図書は最後に基本文の一覧があり、復習するのに良い。

委 員 教育出版には、別冊の問題集がついているが、これがあることで、教科書の中身が少なくなっているのか。

指導主事 そうではない。問題集の内容を他の会社は教科書に盛り込んでいる。本体が薄くなっているということではない。

委 員 6 社の中で、学校図書は１年生の始めは I am ではなく、一般動詞から入っている。日常的な会話から入るところに特色がある。他社との大きな違いである。

委 員 学校図書は、各レッスンの後に「Review」という復習のページがあり、学習した文法事項を繰り返して学習することができるようになっている。

委 員 学校図書の「Project」では、丁寧なステップを踏んでスピーチ原稿等が書けるようになっており、英語が苦手な子どもでも取り組みやすいように工夫されている。

- 委員 学校図書は巻末付録に、「目標文のまとめ」があり、どのレッスンで何を学習したか、復習することができるようになっている。
- 委員 東京書籍は、書く活動について、順序・手立てが詳しく示されているので、無理なく作文できる。1年生P82のカードを書く学習では、例文がたくさんあり、書く手順が細かく示されている。2年生のP90に詩の書き方、3年生P92のレポートの書き方でも、丁寧な説明があるので苦手な生徒でも取り組みやすくなっている。
- 委員 東京書籍は書き込むスペースが多いのも良い。
- 委員 東京書籍は3年生の最後に東京書籍は長文でパラリンピックの選手のスピーチが記載され、これが読めるようになると達成感があると思う。苦手な子が最後まで読めるようになると大きな喜びがあり、自信に繋がる。これを読めるようになることを目標に学習することが伝わってくる。3年生のP136の数の読み方、分数、小数、数式の表記の仕方は得意な子も知っていると便利だと思った。
- 委員 開隆堂の一番最後に「出来るようになったことリスト」は、3学年同じものを見て、自分がどれだけ出来るようになったかを確認、また、目標や見通しを持つ上で良いと思う。
- 委員 三省堂はGetで理解し、Useで使う構成は生徒が理解していく上で、扱いやすいと思う。
- 委員 三省堂は生徒たちが知っている教材で、読みやすく関心を持ちやすい。開隆堂も読みやすい教材を使っている。
- 委員 三省堂の付録で前置詞の扱いは授業中、説明しながら扱っているのか。
- 指導主事 説明しながら扱う。単語が出てくるたびに振り返ることができる。絵で示されており、分かりやすい。
- 委員 三省堂で前置詞の表記があるのは特徴である。
- 委員 三省堂では付録に「絵でわかる英語のしくみ」のコーナーがあり、分かりやすい。
- 委員 光村図書は茶色い紙の色で遊び紙がある。紙の色で読む気になるかもしれない。
- 委員長 それではまとめる。学校図書、三省堂を☆3つ、東京書籍、開隆堂を☆2つ、光村図書、教育出版を☆1つとする。それで良いか。

委 員 (よい)

委員長 これですべての種目について終了した。次回は本日の協議をまとめ、報告書を作成することとなる。次回に向けて事務局に本日の協議をもとにその取りまとめをお願いしたいがいかがか。

委 員 (異議なし)

委員長 では事務局の方で報告書の原案を作成していただき、次回はそれをもとに協議を進めることとする。

事務局 第3回について、報告書原案の提示
種目ごとに☆の数と文章表現の確認

(閉会)